

Ⅱ 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について

1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる

問6 鳥取県の施策等について、あなたの満足度をお聞きますので、それぞれ5段階で評価をお願いします。(1～5のいずれかの数字に○をしてください。)

※「5」は満足、「1」は不満

問 6-1 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度

～「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」の満足度が高い～

「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」の取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が37.4%と最も割合が高く、次いで「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」が29.7%、「文化・アートのまちづくりの取組」が27.1%と続いている。

令和6年度～8年度を比較してみると、前年度と比べ満足度は「スポーツ活動の振興や交流を拡げる取組」「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」が1ポイント程度増加、「外国人観光客や国際交流を拡大する取組」「地球規模での環境課題への対応」が横ばいとなっている。

一方、不満(不満・やや不満の計)については、「文化・アートのまちづくりの取組」が前回調査で4.6ポイント減少したものの、そこから2.1ポイント増加している。

図13 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度 (n=1,523)

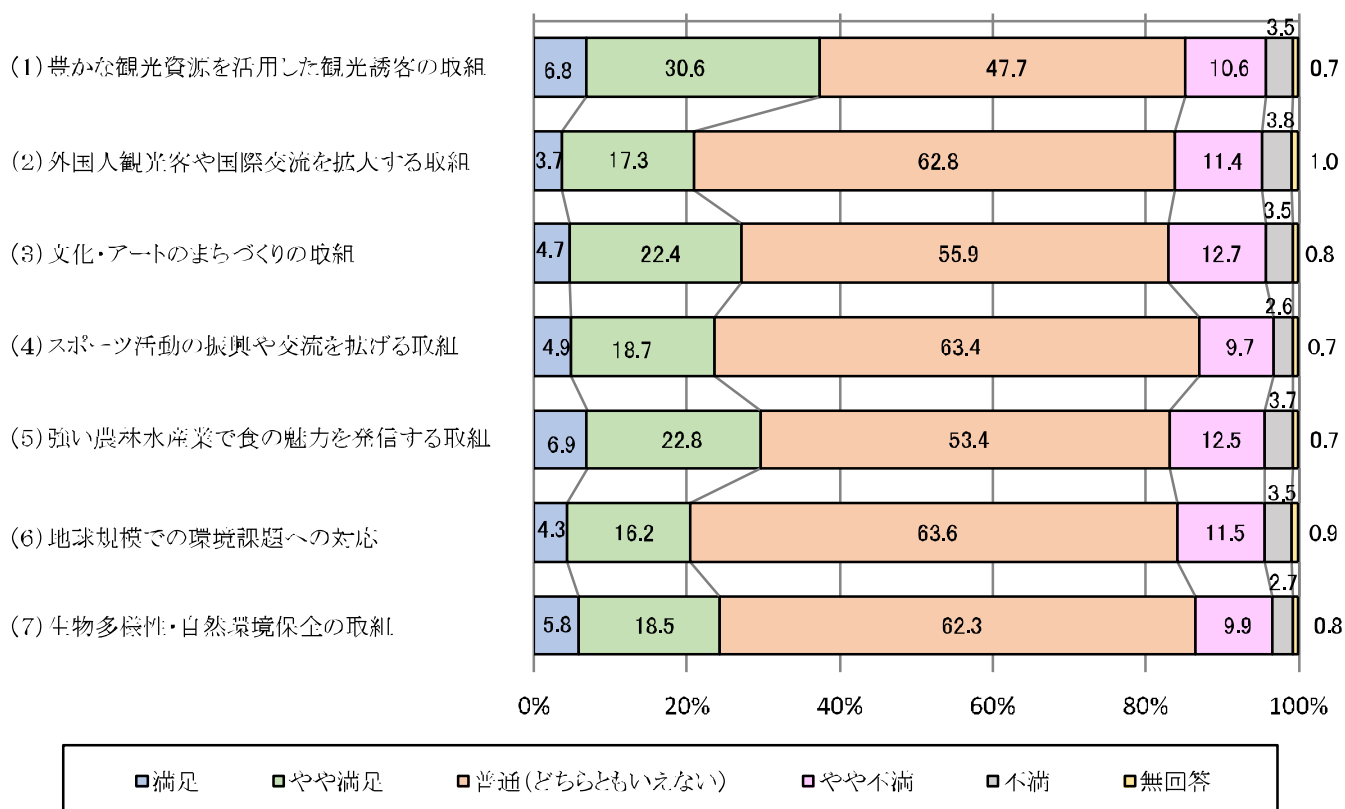
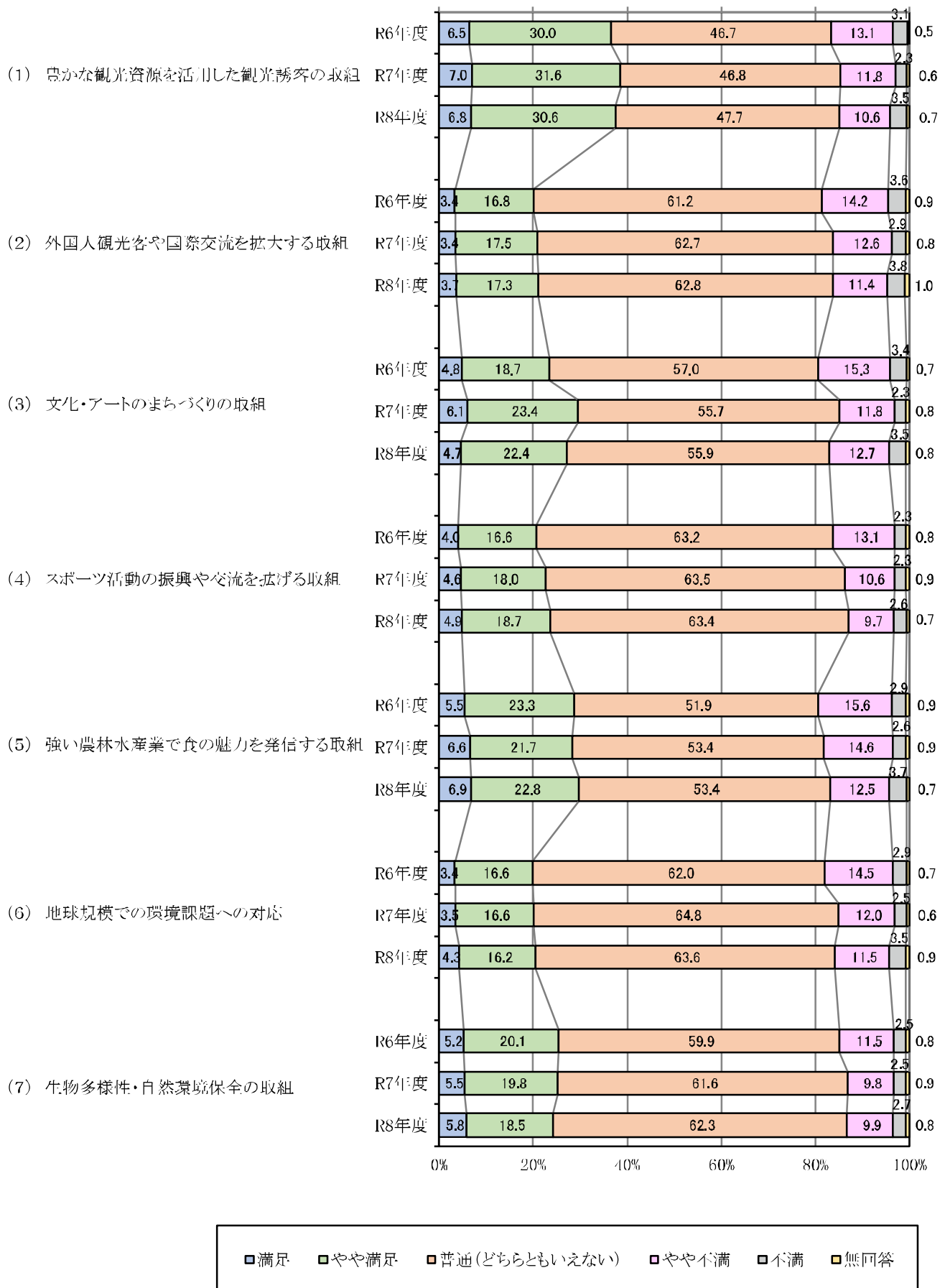


図 14 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度(年次比較)



●「満足・やや満足」のポイント数が前年度より上がった項目

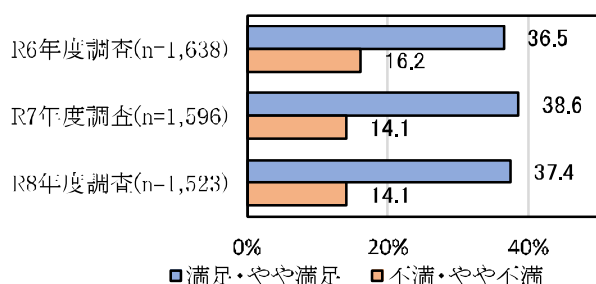
(5) 強い農林水産業で食の魅力を発信する取組	【+1.4】
(4) スポーツ活動の振興や交流を拡げる取組	【+1.0】
(6) 地球規模での環境課題への対応	【+0.4】
(1) 外国人観光客や国際交流を拡大する取組	【+0.1】

●「不満・やや不満」のポイント数が前年度より上がった項目

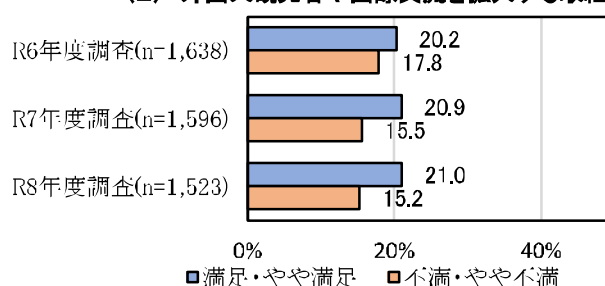
(3) 文化・アートのまちづくりの取組	【+2.1】
(6) 地球規模での環境課題への対応	【+0.5】
(7) 生物多様性・自然環境保全の取組	【+0.3】

●満足度・不満足度の比較

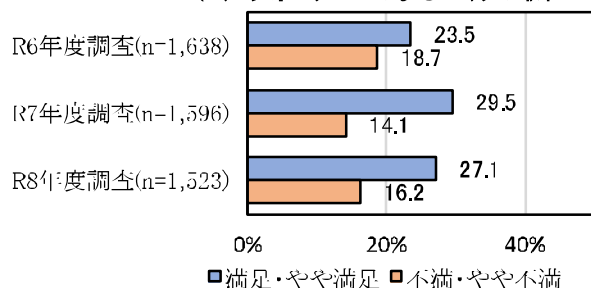
(1) 豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組



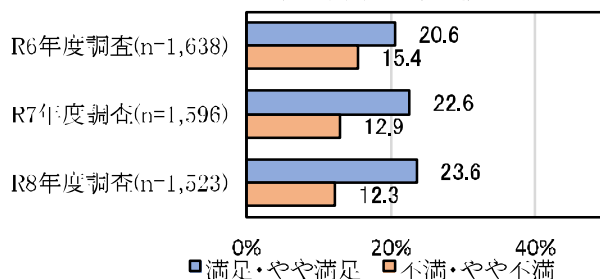
(2) 外国人観光客や国際交流を拡大する取組



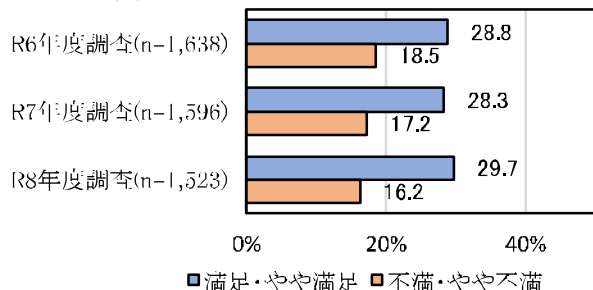
(3) 文化・アートのまちづくりの取組



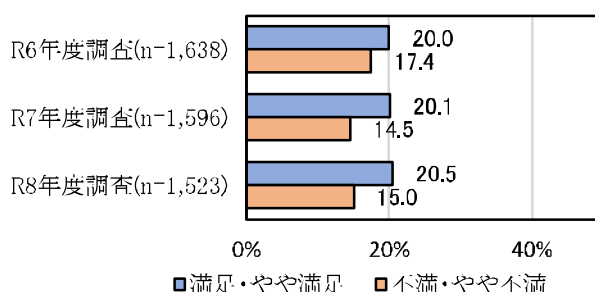
(4) スポーツ活動の振興や交流を拡げる取組



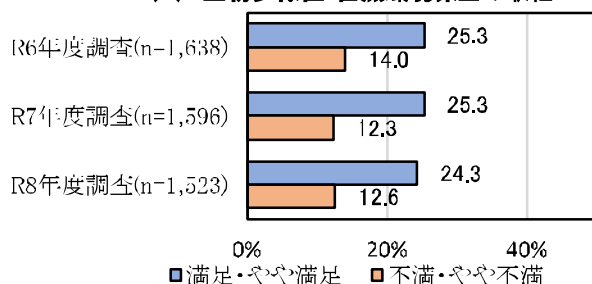
(5) 強い農林水産業で食の魅力を発信する取組



(6) 地球規模での環境課題への対応



(7) 生物多様性・自然環境保全の取組



問 6-1-2 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」の施策等のうち、あなたが今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

～「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」が上位～

今後優先すべき重要度の高い項目は、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が63.8%と最も高く、次いで「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」が61.7%、「地球規模での環境課題への対応」が41.6%と続いている。

令和6年度-8年度を比較してみると、前年度と比べ「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」「外国人観光客や国際交流を拡大する取組」「文化・アートのまちづくりの取組」が1.5ポイント程度増加している。

年代別でみると、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」は20～40歳代で高く、「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」は30歳代以上で高く、「地球規模での環境課題への対応」は60歳代以上で高くなっている。

性・年代別でみると、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」は男性の20～40歳代、女性の20歳代、「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」は男性の30～50歳代、女性の60歳代以上、「地球規模での環境課題への対応」は女性の60歳代以上で高くなっている。

図15 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」項目のうち今後優先すべき(重要度の高い)項目 (年次比較)

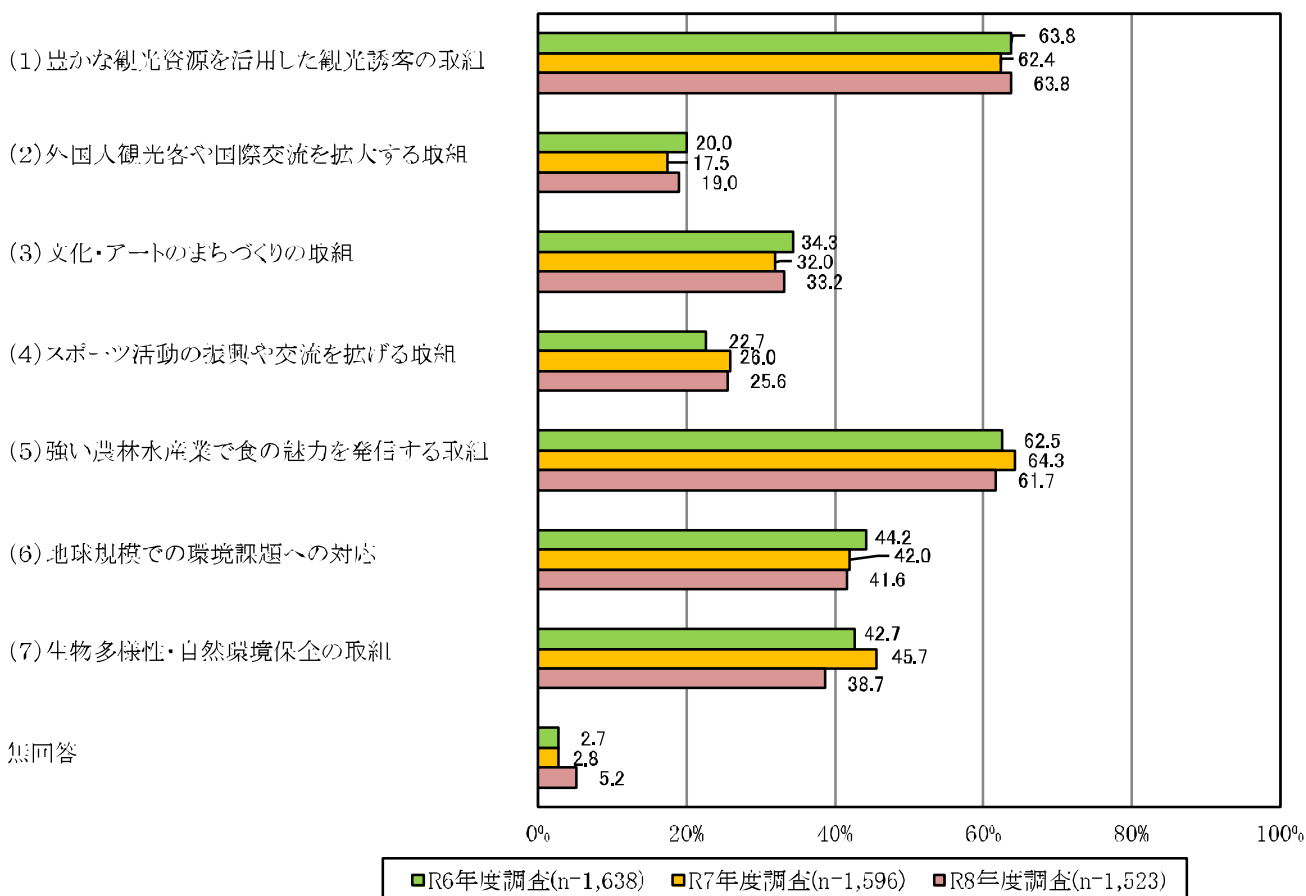
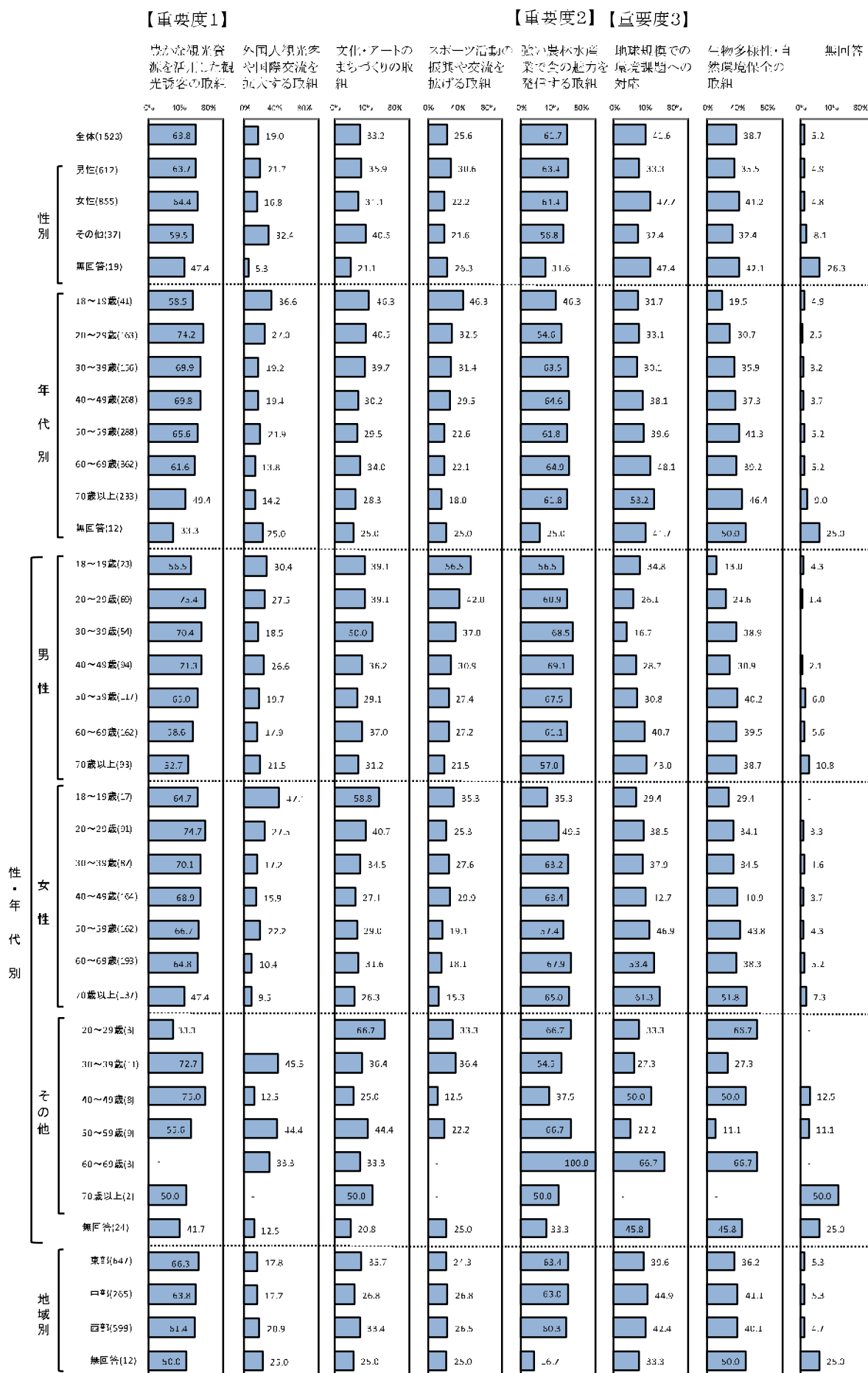


図 16 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の重要度(性別・年代別・地域別)



2 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む

問 6-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度

～「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」の満足度が高い～

「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」の取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」が 26.1%と最も高く、次いで「地域の健康と安心を守る取組」が 21.4%、「智をひらく豊かな学びの取組」が 18.2%となっている。

一方、不満(不満・やや不満の合計)については、「中山間地の生活や社会機能を守る取組」が 39.7%と最も高く、約4割が不満を感じており、「若い力が輝く協働のまちづくりの取組」「危機を乗り越え、地域を元気にする取組」については約3割が不満を感じている。

前回調査と比較してみると、「危機を乗り越え、地域を元気にする取組」の満足度が 2.7 ポイント増加している。

図17 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度 (n=1,523)

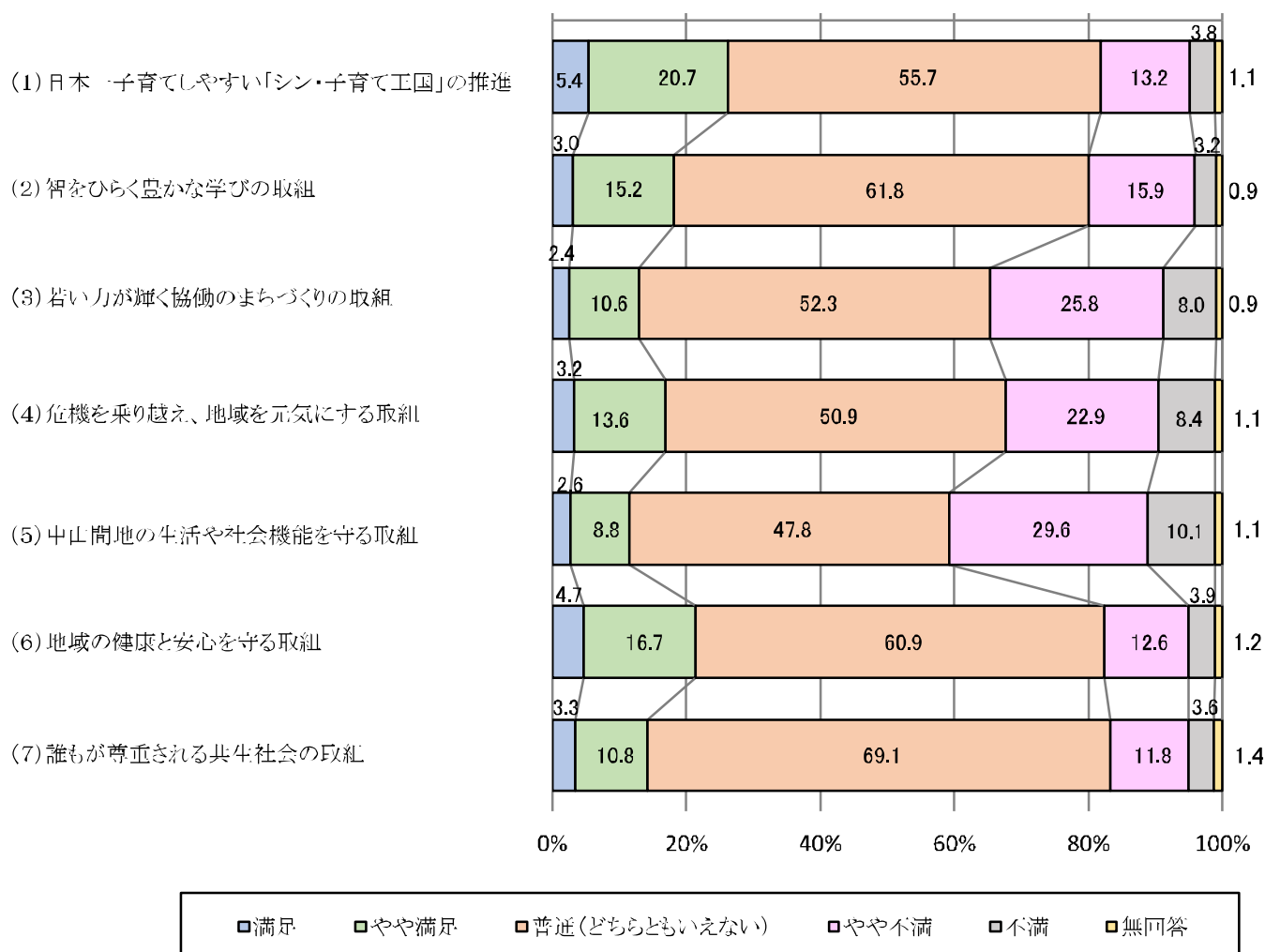
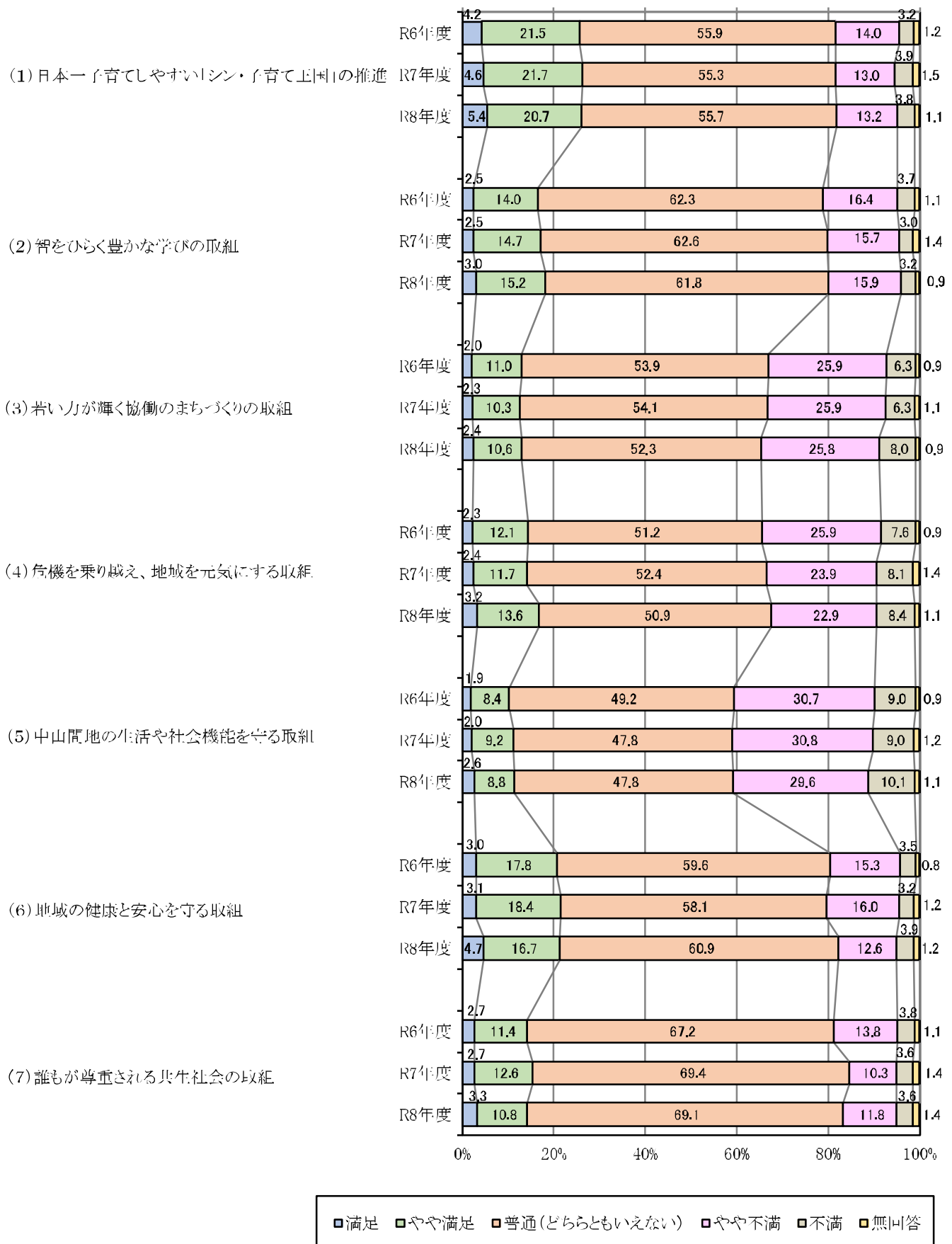


図 18 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度(年次比較)



●「満足・やや満足」のポイント数が前年度より上がった項目

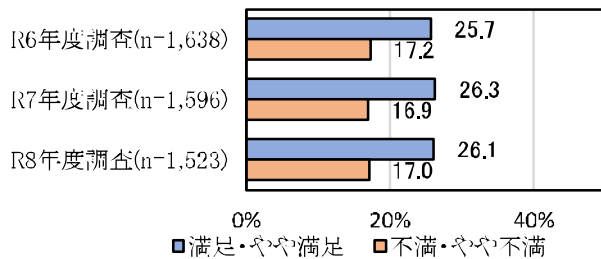
- (4) 危機を乗り越え、地域を元気にする取組 【+2.7】
- (2) 智をひらく豊かな学びの取組 【+1.0】
- (3) 若い力が輝く協働のまちづくりの取組 【+0.4】
- (5) 中山間地の生活や社会機能を守る取組 【+0.2】

●「不満・やや不満」のポイント数が前年度より上がった項目

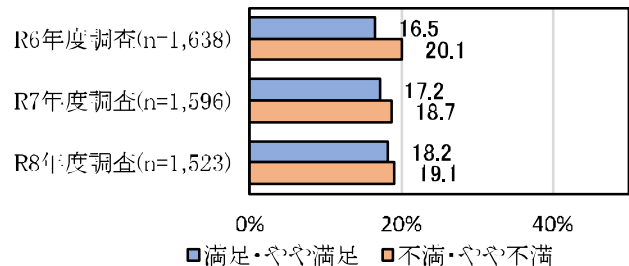
- (3) 若い力が輝く協働のまちづくりの取組 【+1.6】
- (7) 誰もが尊重される共生社会の取組 【+1.5】
- (2) 智をひらく豊かな学びの取組 【+0.4】
- (1) 日本一子育てしやすい「シン・子育て王国」の推進 【+0.1】

●満足度・不満足度の比較

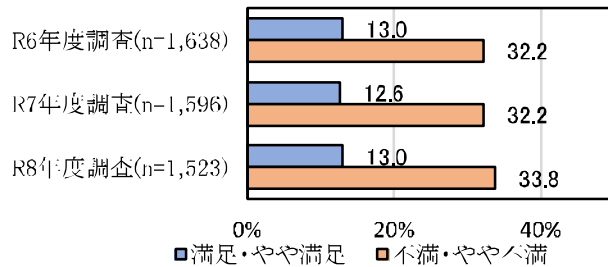
(1) 日本一子育てしやすい「シン・子育て王国」の推進



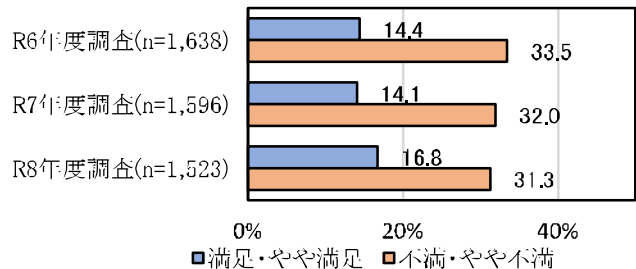
(2) 智をひらく豊かな学びの取組



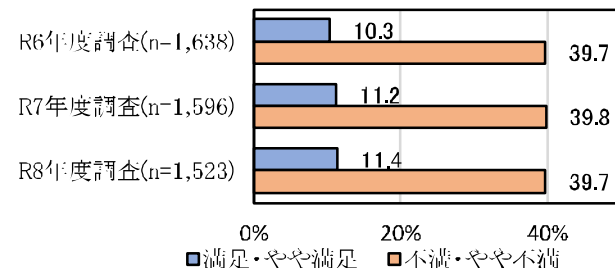
(3) 若い力が輝く協働のまちづくりの取組



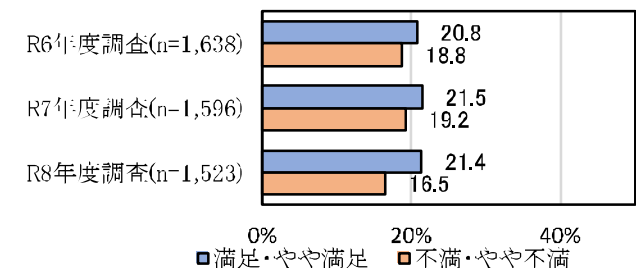
(4) 危機を乗り越え、地域を元気にする取組



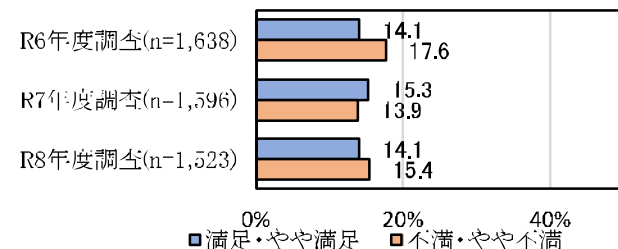
(5) 中山間地の生活や社会機能を守る取組



(6) 地域の健康と安心を守る取組



(7) 誰もが尊重される共生社会の取組



問 6-2-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」の施策のうち、今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

～「若い力が輝く協働のまちづくり」「『シン・子育て王国』の推進」が上位～

今後優先すべき重要度の高い項目は、「若い力が輝く協働のまちづくりの取組」が62.6%と最も高く、次いで「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」が53.8%、「地域の健康と安心を守る取組」が45.8%となっている。

令和6年度-8年度比較してみると、前年度と比べて「中山間地の生活や社会機能を守る取組」が2ポイント増加している。

年代別でみると、「若い力が輝く協働のまちづくりの取組」は20歳代、「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」は20～30歳代、「中山間地の生活や社会機能を守る取組」は60歳代以上で高くなっている。

性・年代別でみると、「若い力が輝く協働のまちづくりの取組」は男性の20～40歳代、女性の20歳代で高く、「中山間地の生活や社会機能を守る取組」は女性の50歳代以上で高くなっている。

**図19 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」項目のうち今後優先すべき
(重要度の高い)項目 (年次比較)**

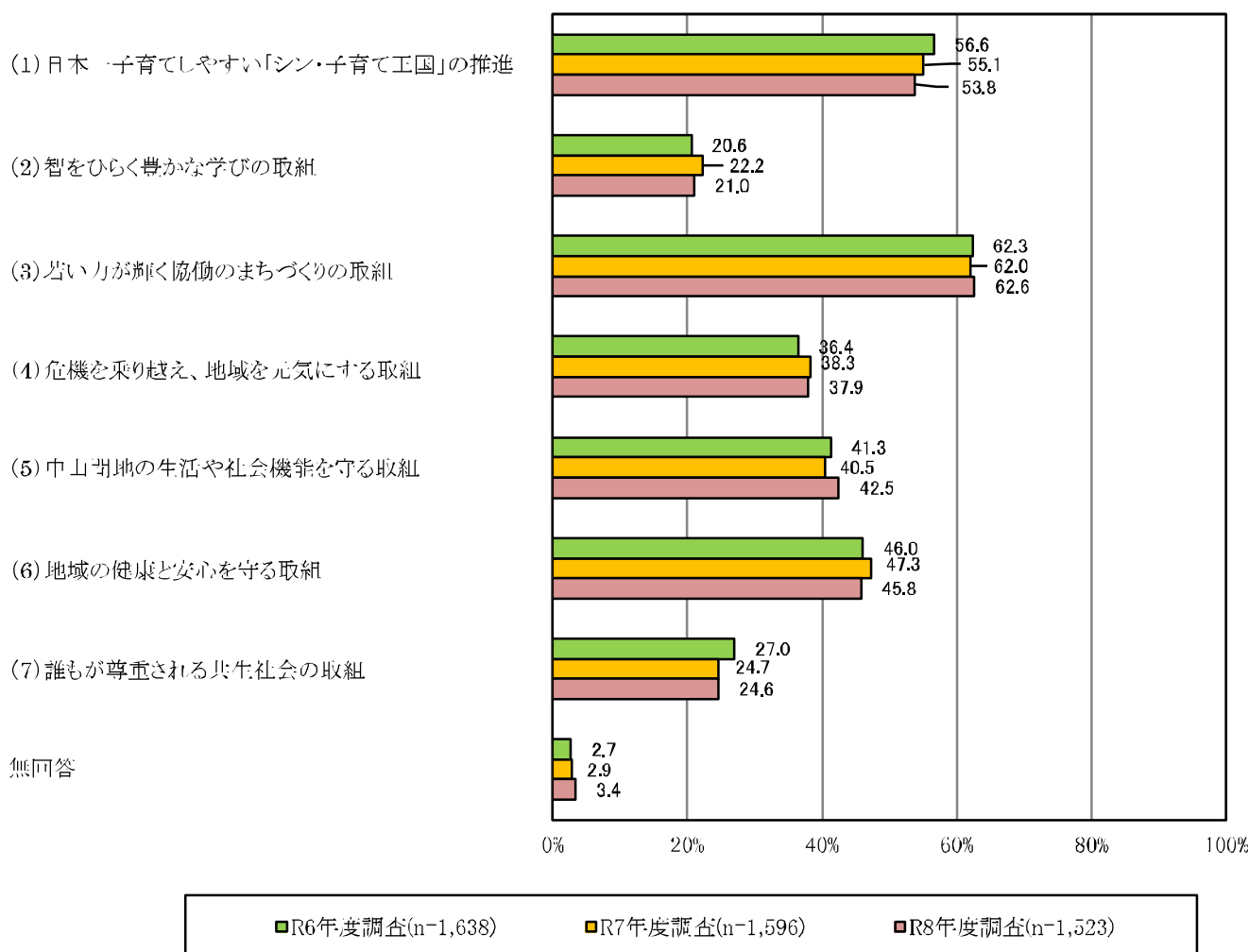
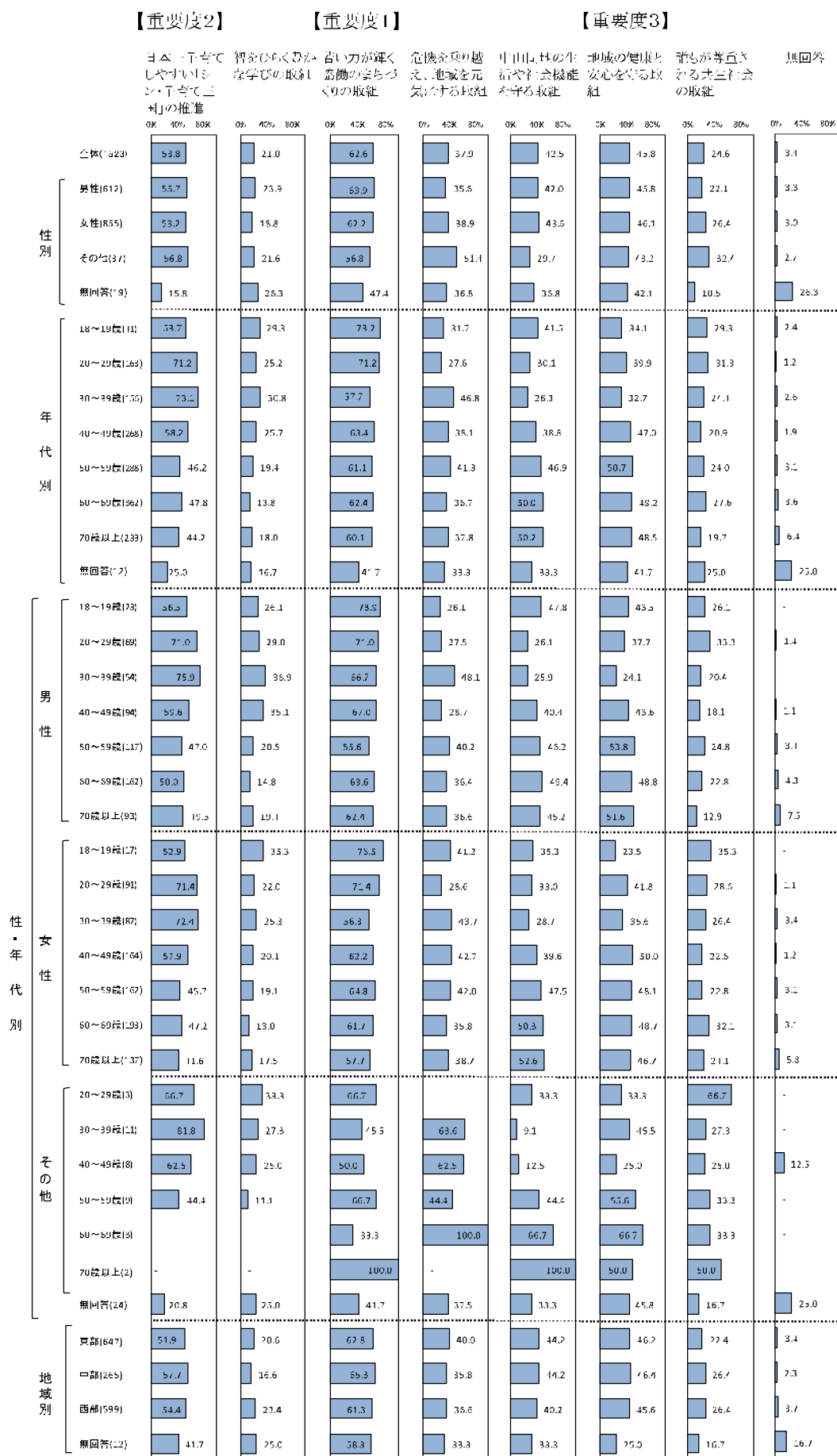


図 20 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の重要度(性別・年代別・地域別)



3 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ

問 6-3 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度

～「防災・減災対策の強化」「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」の満足度が高い～

「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」ための取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「防災・減災対策の強化」「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」が 18.8%と最も高く、次いで「移住定住の促進」が 13.6%となっている。

令和16年度-8年度を比較してみると、前年度と比べて満足度は「県内産業の持続的発展をめざす取組」が 1.5 ポイント増加しており、その他の項目では横ばいとなっている。

一方、不満(不満・やや不満の計)については、「関係人口の創出を進める取組」が 1.6 ポイント増加している。

図21 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度 (n=1,523)

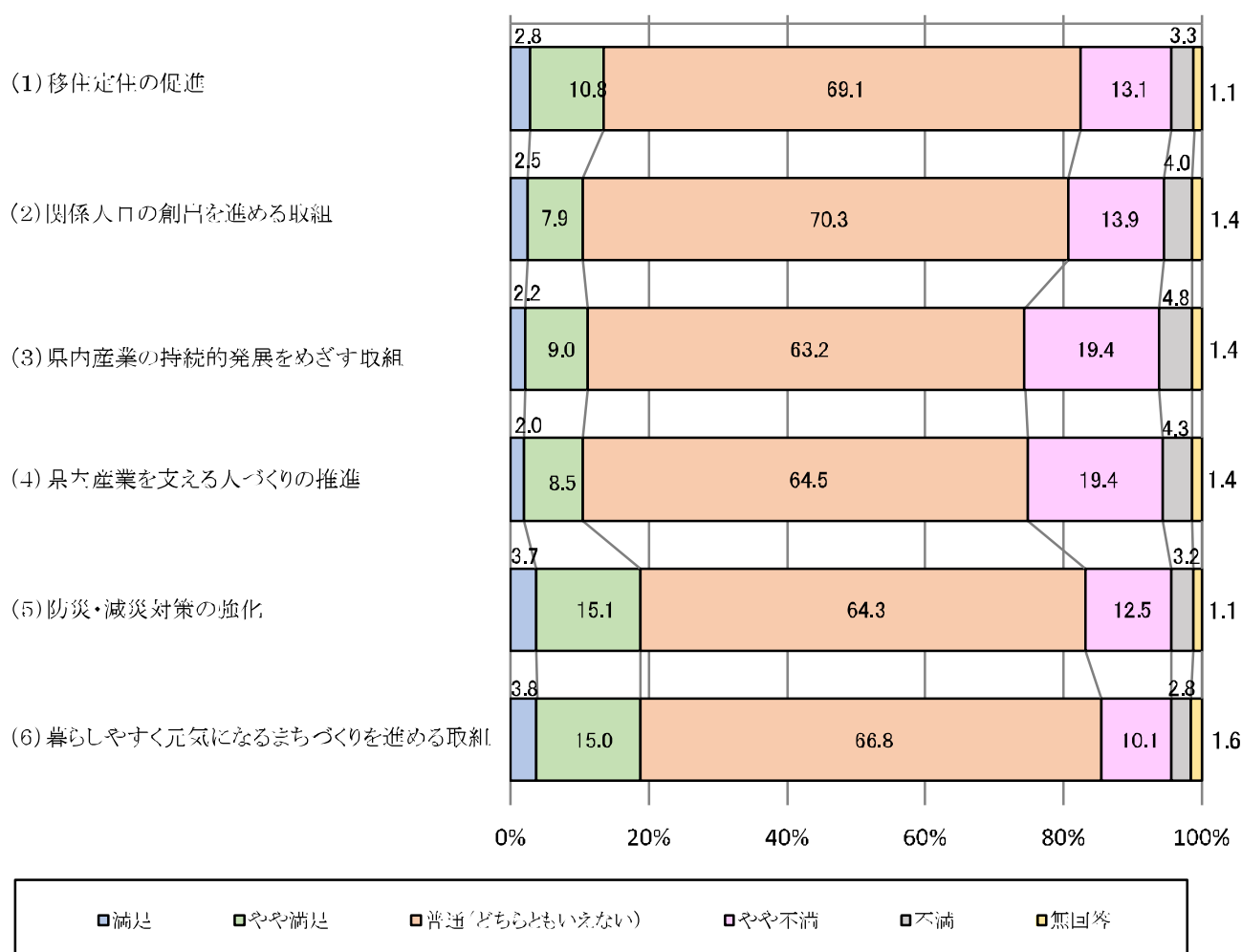
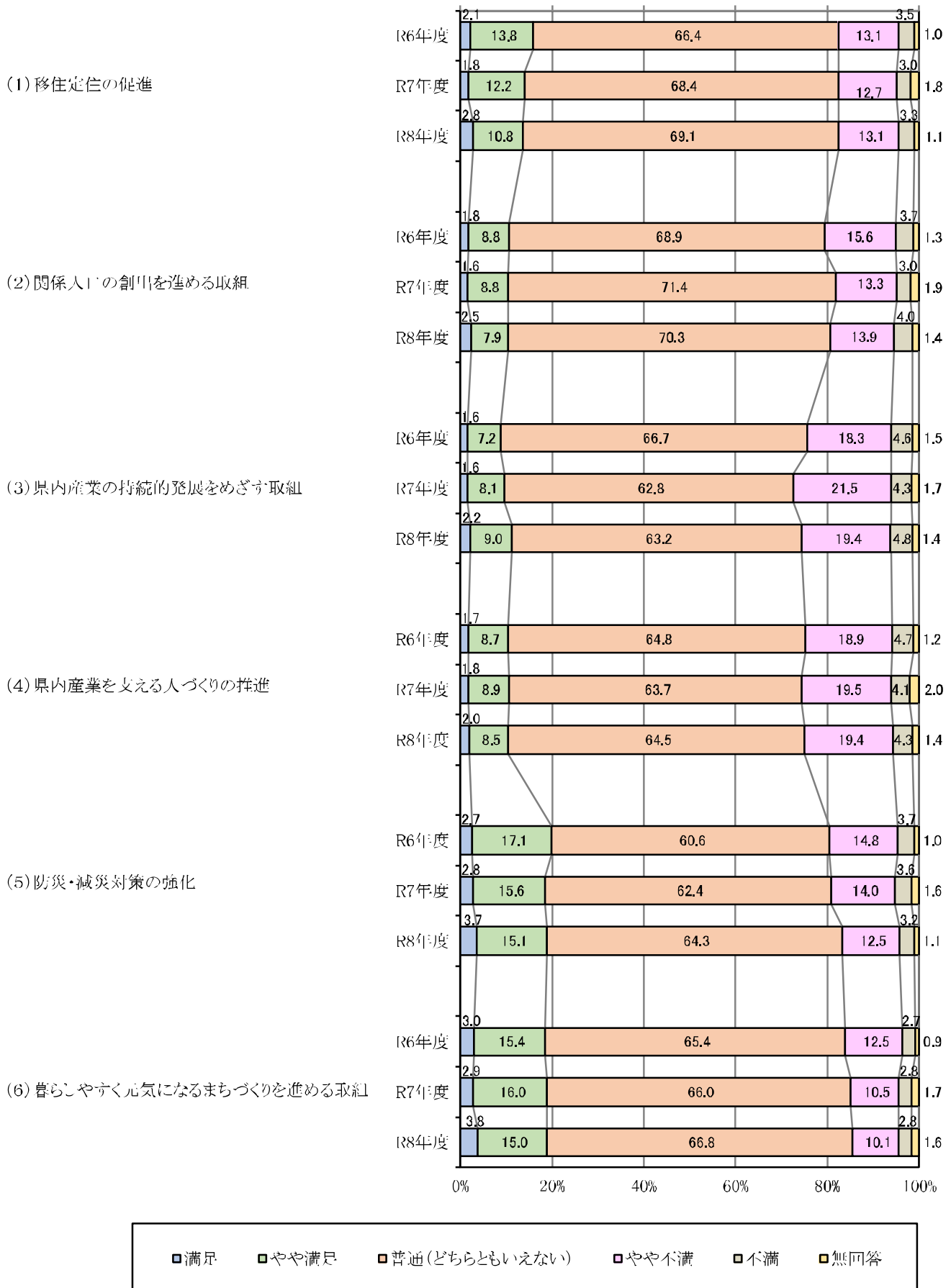


図 22 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度(年次比較)



●「満足・やや満足」のポイント数が前年度より上がった項目

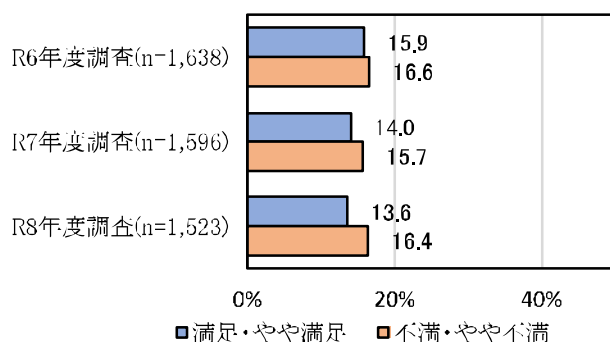
- (3) 県内産業の持続的発展をめざす取組 【+1.5】
 (5) 防災・減災対策の強化 【+0.4】

●「不満・やや不満」のポイント数が前年度より上がった項目

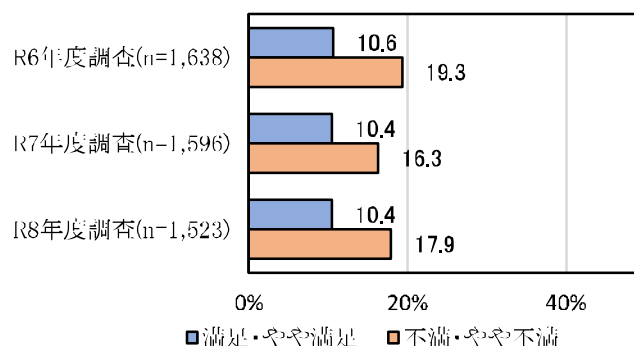
- (2) 関係人口の創出を進める取組 【+1.6】
 (1) 移住定住の促進 【+0.7】
 (4) 県内産業を支える人づくりの推進 【+0.1】

●満足度・不満足度の比較

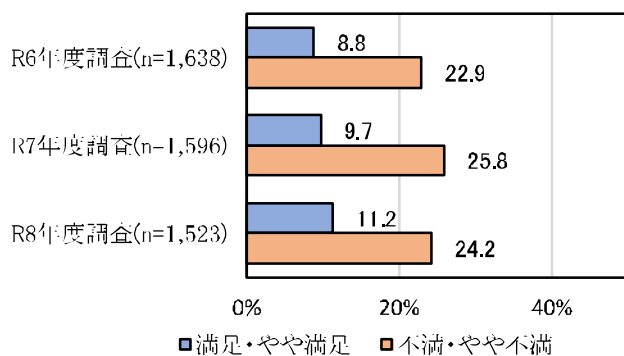
(1) 移住定住の促進



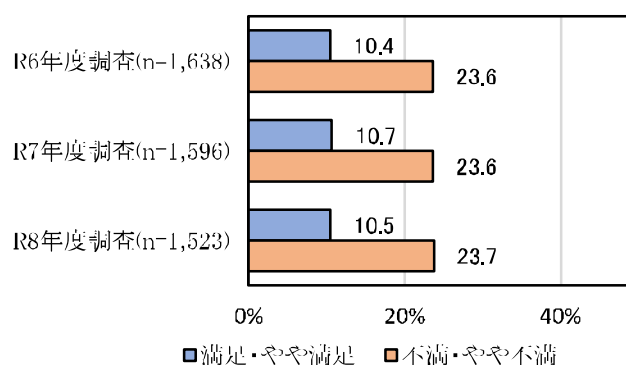
(2) 関係人口の創出を進める取組



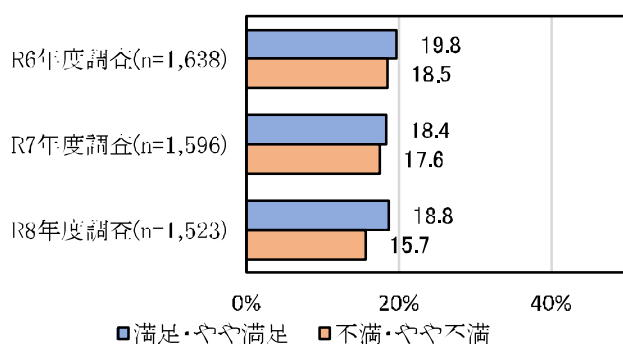
(3) 県内産業の持続的発展をめざす取組



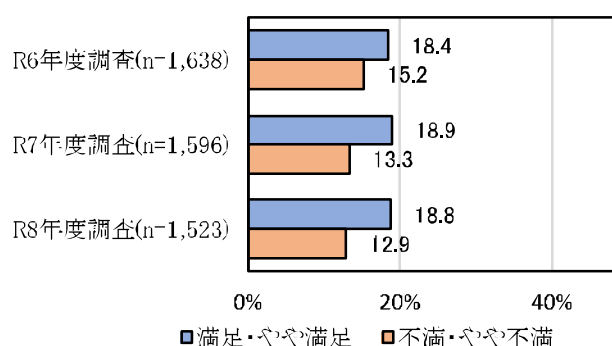
(4) 県内産業を支える人づくりの推進



(5) 防災・減災対策の強化



(6) 暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組



問 6-3-2 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」の施策等のうち、今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

～「県内産業の持続的発展をめざす取組」、「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」、「県内産業を支える人づくりの推進」が上位～

今後優先すべき重要度の高い項目は、「県内産業の持続的発展をめざす取組」が56.5%と最も高く、次いで「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」が55.5%、「県内産業を支える人づくりの推進」が55.0%となっている。

令和6年度-8年度を比較してみると、前年度と比べて「移住定住の促進」は3.8ポイント増加している。

年代別でみると、「県内産業の持続的発展をめざす取組」は 40～50 歳代、「県内産業を支える人づくりの推進」は 50 歳代、70 歳以上、「移住定住の促進」は 20～30 歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「県内産業の持続的発展をめざす取組」は男性の 30～50 歳代、「県内産業を支える人づくりの推進」は男性の 30 歳代、70 歳以上、「移住定住の促進」は男性の 20～40 歳代、女性の 20 歳代、「防災・減災対策の強化」は女性の 30 歳代、60 歳以上で高くなっている。

図23 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」項目のうち今後優先すべき(重要度の高い)項目（年次比較）

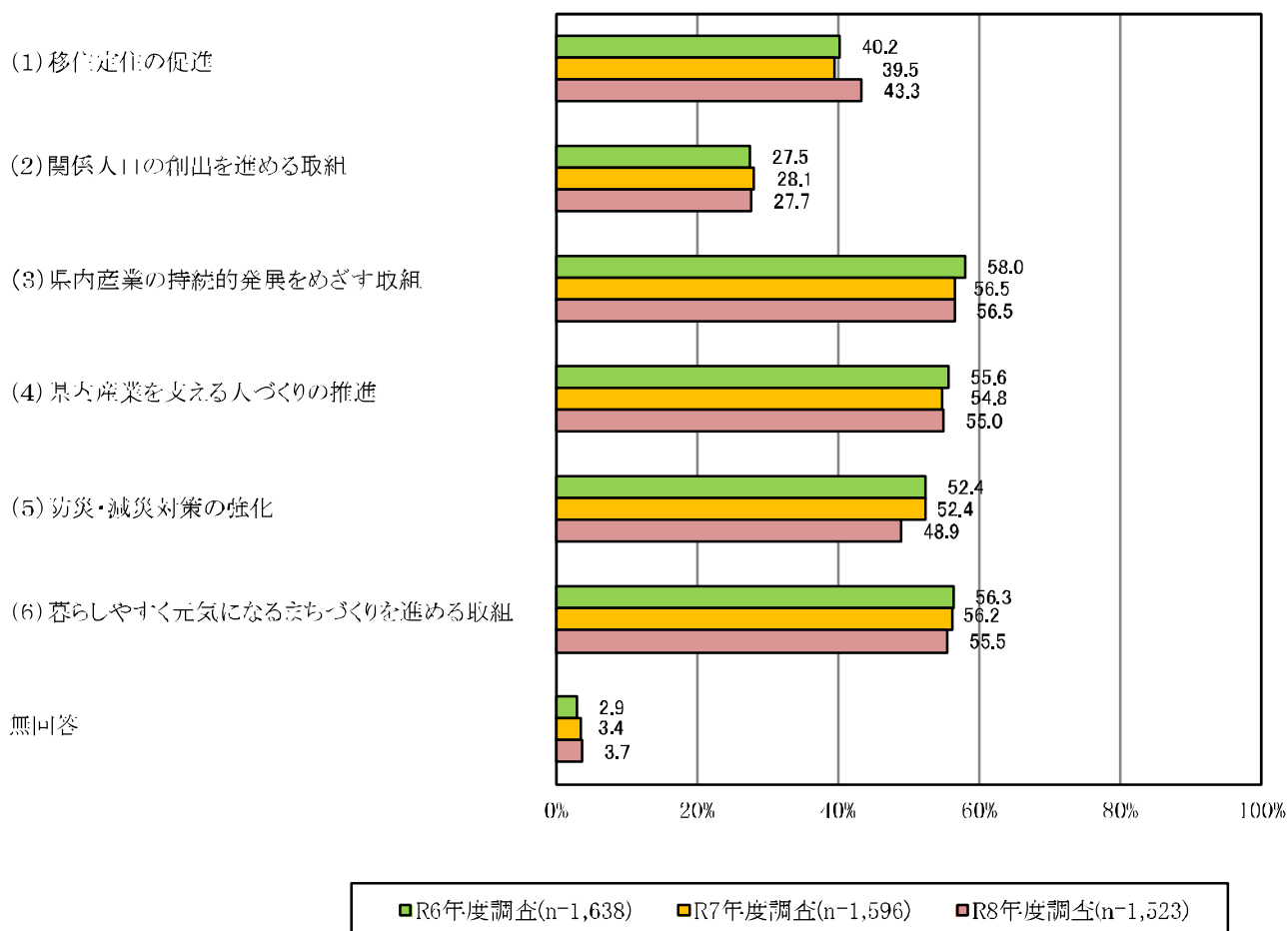
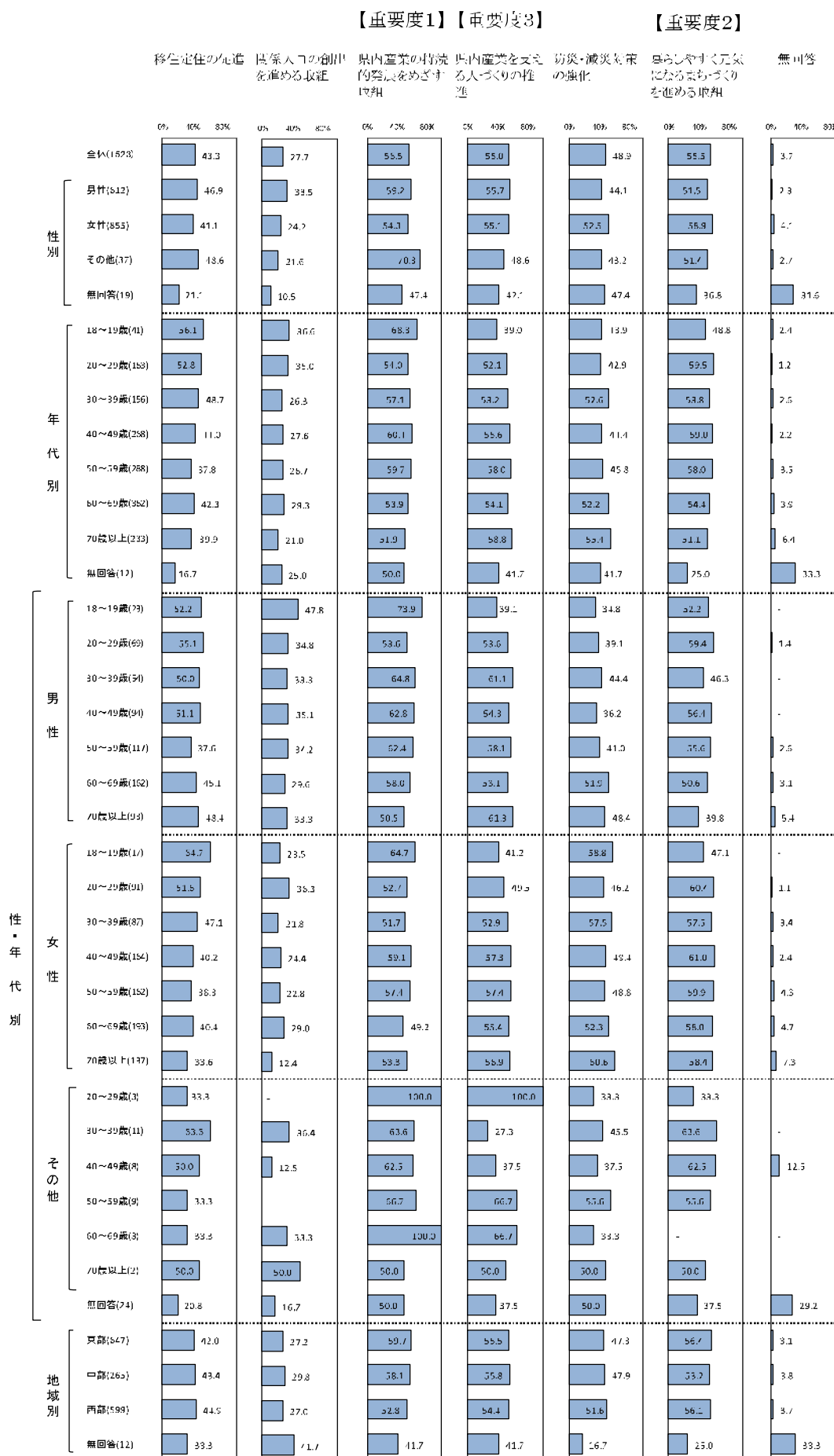


図 24「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の重要度(性別・年代別・地域別)



4 男女共同参画社会づくり

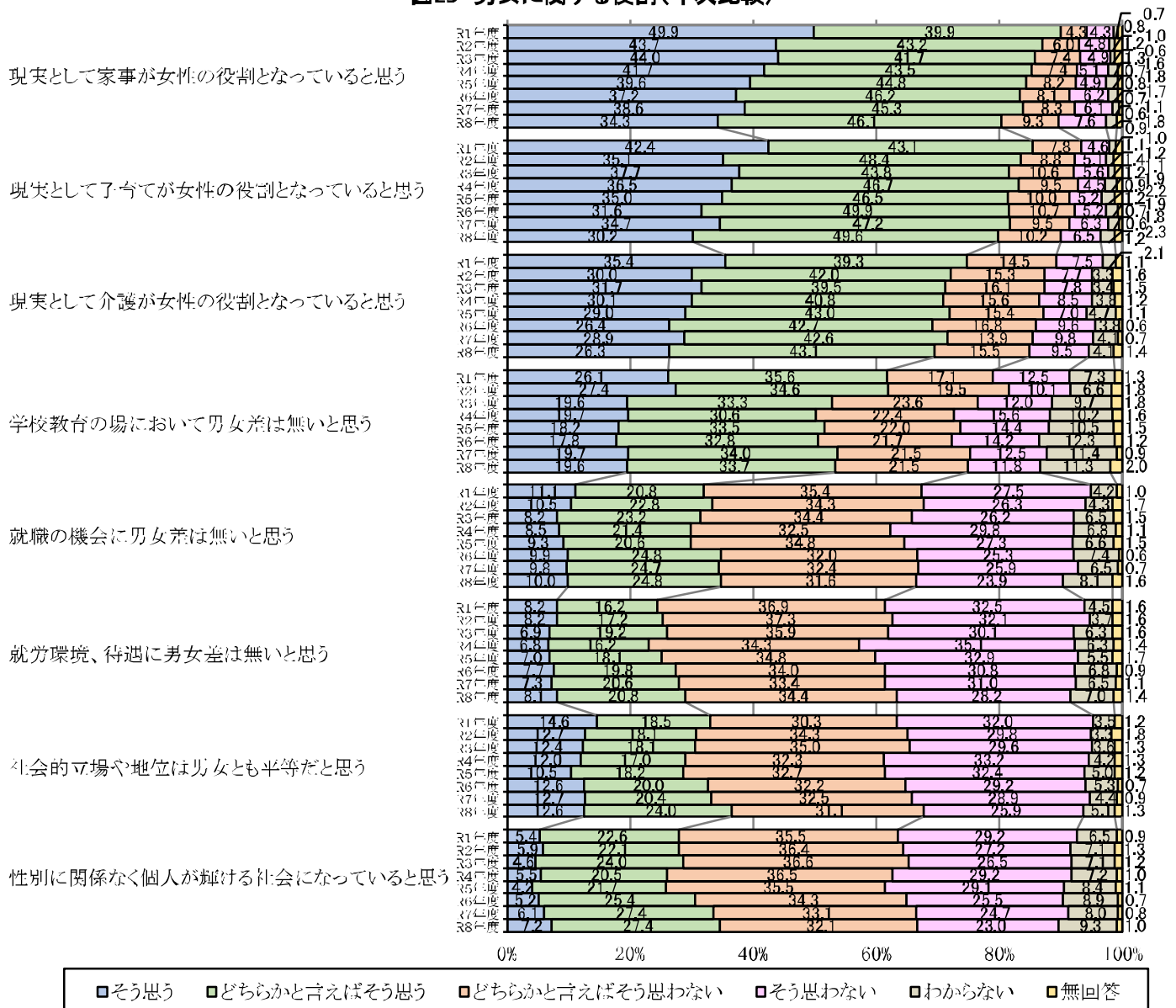
問7 男女に関する役割などについてお聞きます。次の項目(設問)についてどう思われますか。項目ごとにいずれかに○を記入してください。

～現実として「家事、子育て、介護が女性の役割となっている」と思う人が多数～

男女に関する役割などについて、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、「現実として家事が女性の役割となっていると思う」が80.4%と最も高く、次いで「現実として子育てが女性の役割となっていると思う」が79.8%、「現実として介護が女性の役割となっていると思う」が69.4%となっている。

令和元年度-8年度と比較してみると、前年度と比べて「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計は「社会的立場や地位は男女とも平等だと思う」が3.5ポイント増加しており、3ヶ年連続で増加傾向となっている。

図25 男女に関する役割(年次比較)



問8 男性の家事・育児・介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は何だと思いますか。(〇は3つまで)

～「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」が上位～

男性の家事・育児・介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は、「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」が 58.6%と最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」が 51.9%、「性別に関係なく家事・育児・介護に参画することについての若い世代や未婚者への普及啓発」が 40.9%となっている。

令和元年度-8年度を比較してみると、上位3項は常に上位を占めており、「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」は前年度より 1.5 ポイント増加している。

性・年代別でみると、「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」は全ての年代で女性が男性より割合が高くなっている。「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」は男性、女性ともに 20～30 歳代で高く、「性別に関係なく家事・育児・介護に参画することについての若い世代や未婚者への普及啓発」は女性の 50 歳代以上で高くなっている。

図26 男性の家事・育児・介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は何だと思いますか(年次比較)

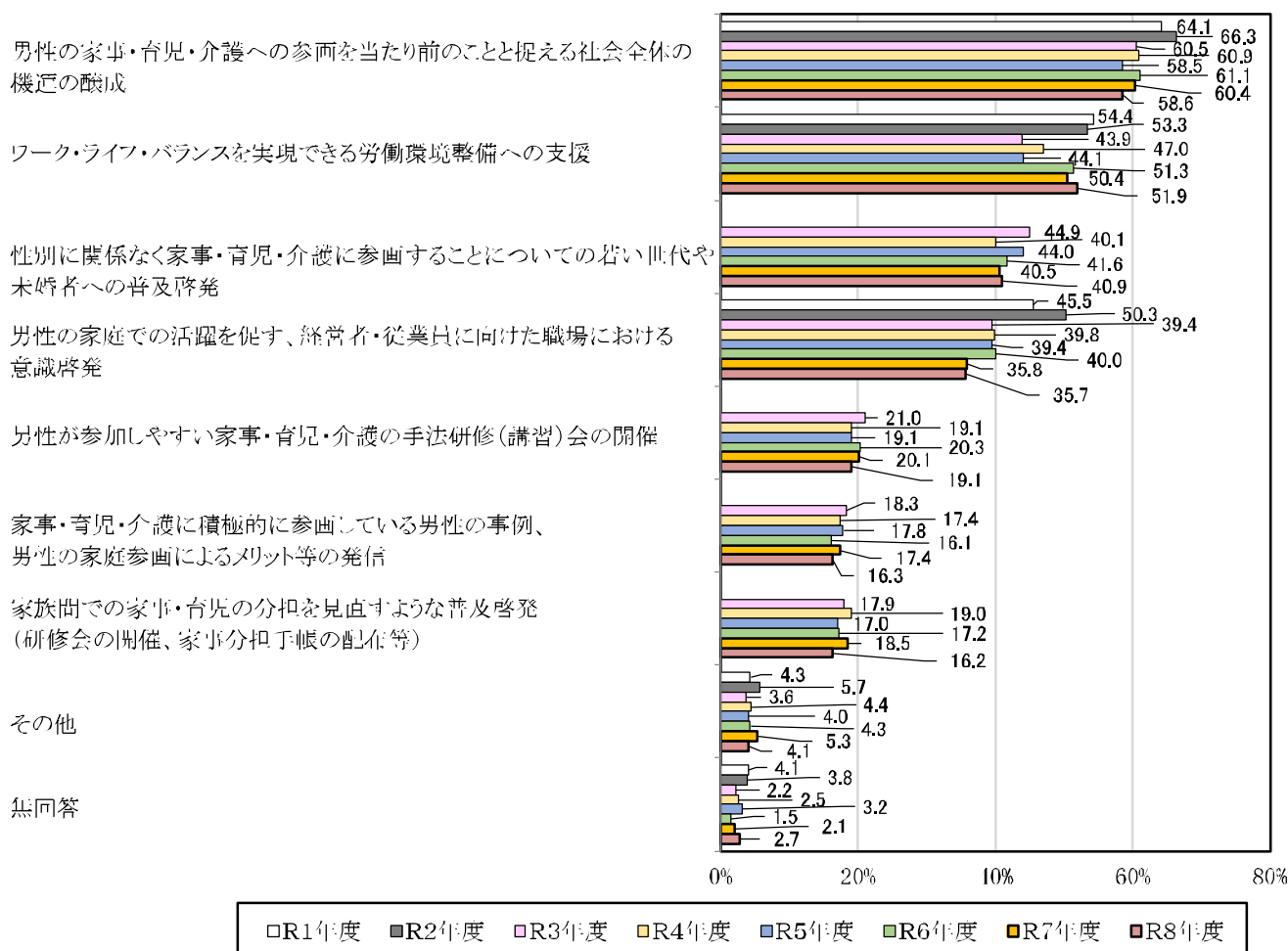
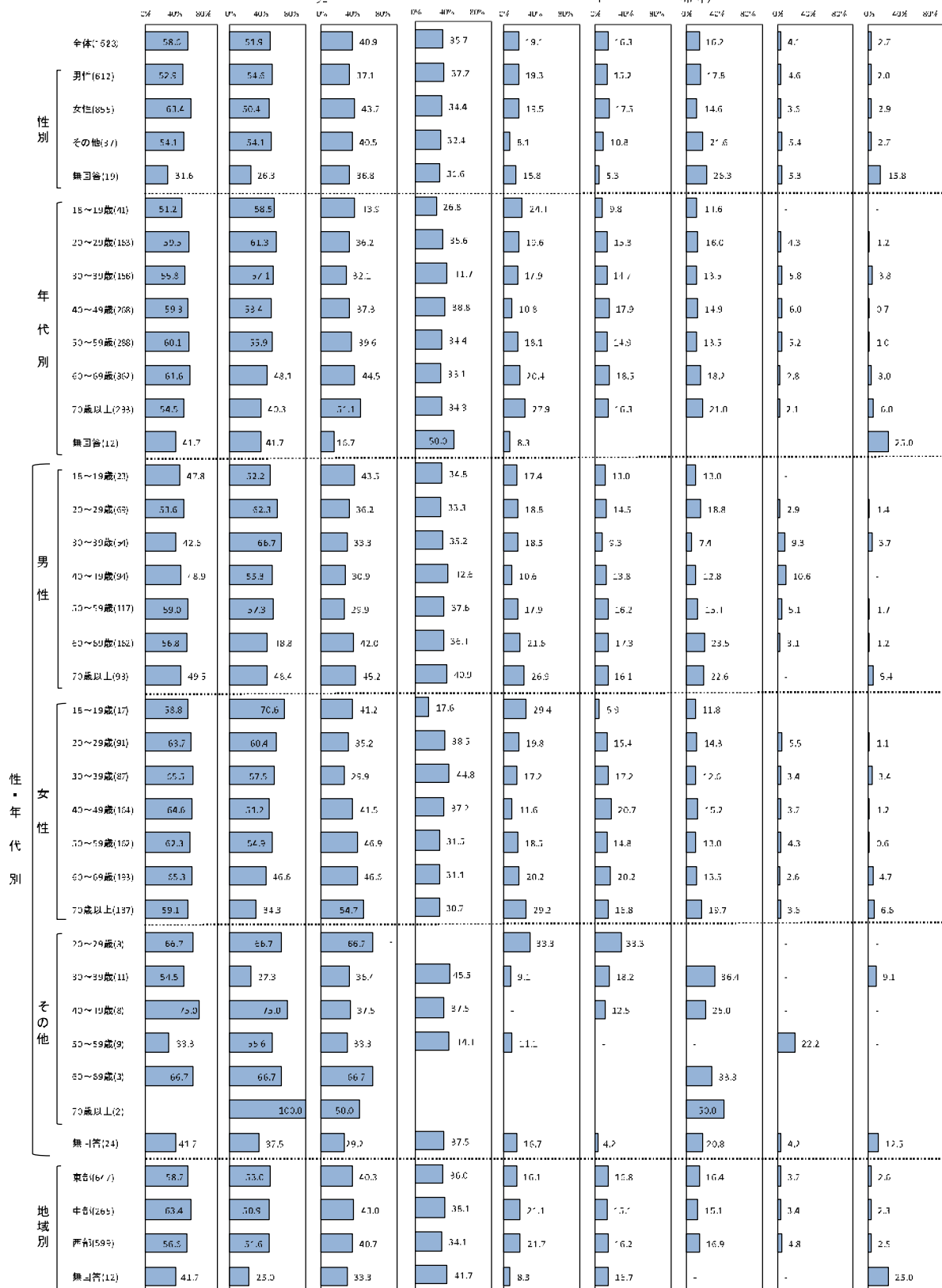


図 27 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策
(性別・年代別・地域別)

【上位1】 【上位2】 【上位3】

男性の家事・育児・介護への参画を当り前のことと捉える社会全体の機運の醸成
ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援
性別に関係なく家事・育児・介護に参画することについての若い世代や未婚者への普及啓発
男性の家庭での役割を促す、経営者・従業員に向けた職場における意識啓発
男性が参加しやすい家事・育児・介護の手法研修(講習)会の開催
家事・育児・介護に積極的に参画している男性の事例、男性性の事例、男性の家庭参画によるメリット等の発信
家族間での家事・育児の分担を促すような普及啓発(研修会の開催、家事分担手帳の配布等)
その他
無回答



問9 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

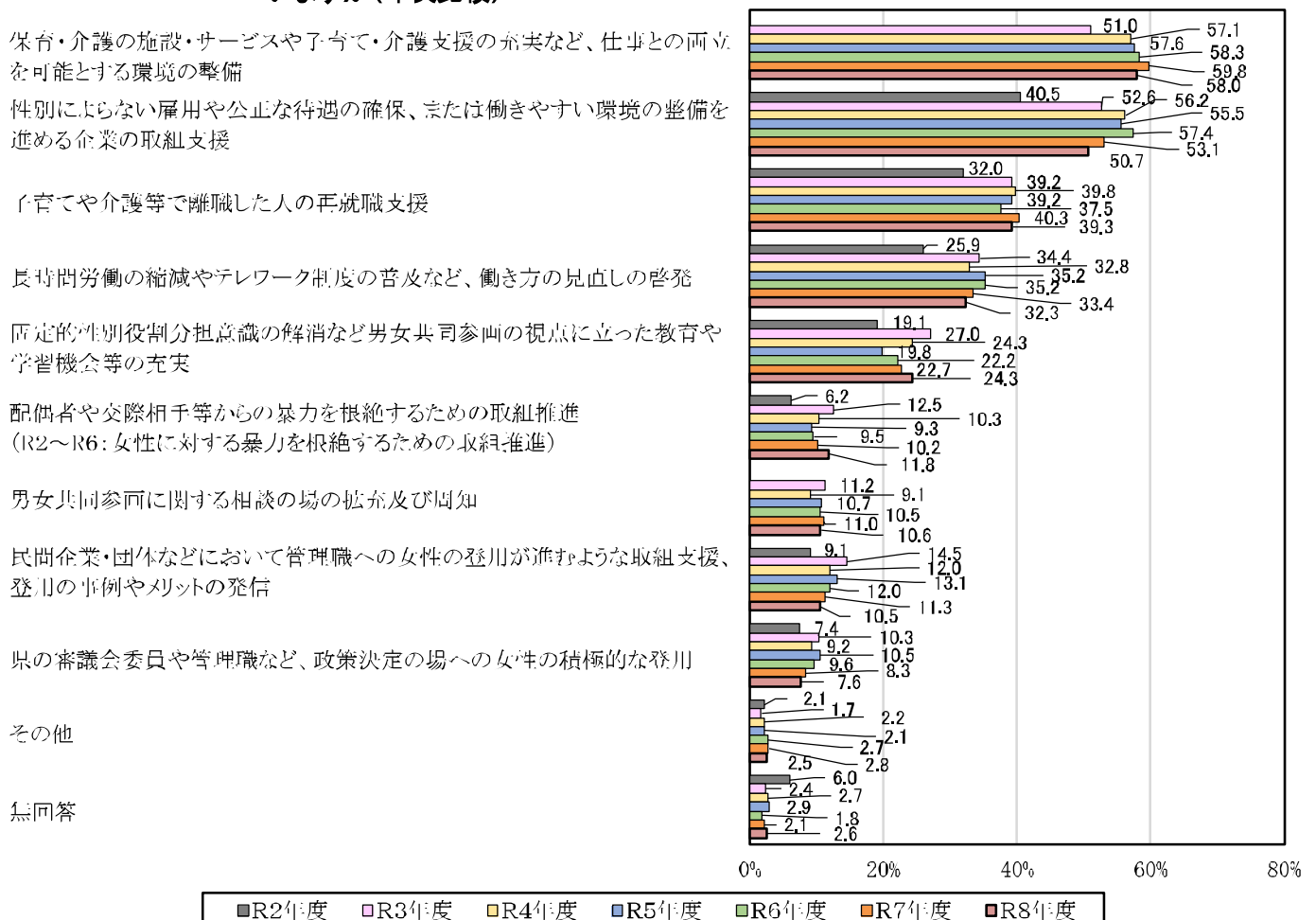
～「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境整備」が高い～

男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは、「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備」が58.0%と最も高く、次いで「性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」が50.7%、「子育てや介護等で離職した人の再就職支援」が39.3%となっている。

令和2年度～8年度を比較してみると、上記の3項目は常に上位を占めている。「固定的性別役割分担意識の解消など男女共同参画の視点に立った教育や学習機会等の充実」「配偶者や交際相手等からの暴力を根絶するための取組推進」は前年度より1.6ポイント増加している。

性・年代別でみると、「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備」は全ての年代で女性が男性より割合が高く、性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援「子育てや介護等で離職した人の再就職支援」は男性の60歳代以上、女性の50歳代で高くなっている。

図28 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは何だと思えますか(年次比較)



【上位1】 【上位2】 【上位3】

保育・介護の 性別によるな 子育てや介

	0%	25%	50%	75%	100%	0%	25%	50%	75%	100%	0%	25%	50%	75%	100%	0%	25%	50%	75%	100%	
58.0		50.7		39.3		32.3		24.3		17.8		10.6		10.5		7.6		2.5		2.6	
51.3			49.3		37.3		31.7		23.5		11.6		14.5		11.4		6.7		3.4		2.0
59.5		52.2		40.5		34.0		24.1		14.9		1.1		10.3		8.3		1.9		2.8	
52.4			55.9		29.7		29.7		35.1		18.5		13.5		2.7		5.4		2.7		2.7
35.8		36.8		31.6		26.3		10.5		-		5.3		5.3		5.3		-		15.8	
45.8		41.5		36.6		61.0		24.4		7.3		17.1		4.9		9.8					
57.1			46.0		35.6		41.1		23.9		15.3		12.3		12.9		1.1		1.2		0.6
60.3			46.2		31.2		40.4		23.1		11.5		10.3		5.1		5.1		3.8		3.8
53.4			46.6		36.6		38.1		23.1		9.3		9.7		10.8		7.8		4.1		0.7
61.5		52.4		39.6		30.2		25.3		12.2		10.8		11.1		5.2		3.5		2.1	
59.4		54.7			47.6		25.7		25.4		13.5		9.4		10.5		8.8		1.7		1.9
59.2		55.2			42.9		22.3		24.5		10.1		10.1		12.1		9.9		1.3		5.1
33.3		25.0		33.3		16.7		8.3				6.7		6.3						25.0	
43.5		39.1		39.1		65.2		17.4		4.3		17.4		8.7		4.3		-		-	
47.8			40.5		31.9		35.2		30.4		17.4		11.4		8.7		5.8		1.4		1.4
51.9			31.5		33.3		44.1		18.5		14.8		11.8		11.1		5.6		3.7		3.7
39.1			15.7		30.9		29.8		22.3		1.1		16.0		9.6		8.5		3.5		-
57.3			46.2		34.2		35.9		24.8		10.3		15.4		8.5		5.1		4.3		1.7
53.1		58.6			42.6		24.1		21.1		14.8		13.0		11.2		6.8		2.5		1.2
57.9		60.2			45.4		21.5		21.5		7.5		12.9		11.1		8.6		1.1		5.4
52.9			47.1		35.3		58.8		35.3		11.8		11.6		-		11.5		-		-
61.7			49.5		35.5		45.2		15.7		12.1		9.9		11.5		8.8		1.1		
65.5		55.3			41.4		40.2		21.8		11.5		5.7		2.3		5.7		4.5		3.4
61.6			48.2		40.2		43.3		22.6		9.8		5.7		11.5		7.9		1.8		1.2
65.4		56.8			45.1		25.3		26.5		13.0		5.8		13.6		5.6		2.5		2.5
65.8		51.3			40.5		25.9		26.9		12.1		5.1		11.8		9.8		1.0		2.5
52.3		52.6			39.4		23.4		27.6		13.1		9.5		10.9		10.2		1.5		7.3
65.1		65.7			33.3		33.3		33.3		66.7		-		-		-		-		-
54.5			36.4																		

<性別に関するアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)>

問 10 次の項目(設問)についてどう思いますか。(〇は1つだけ)

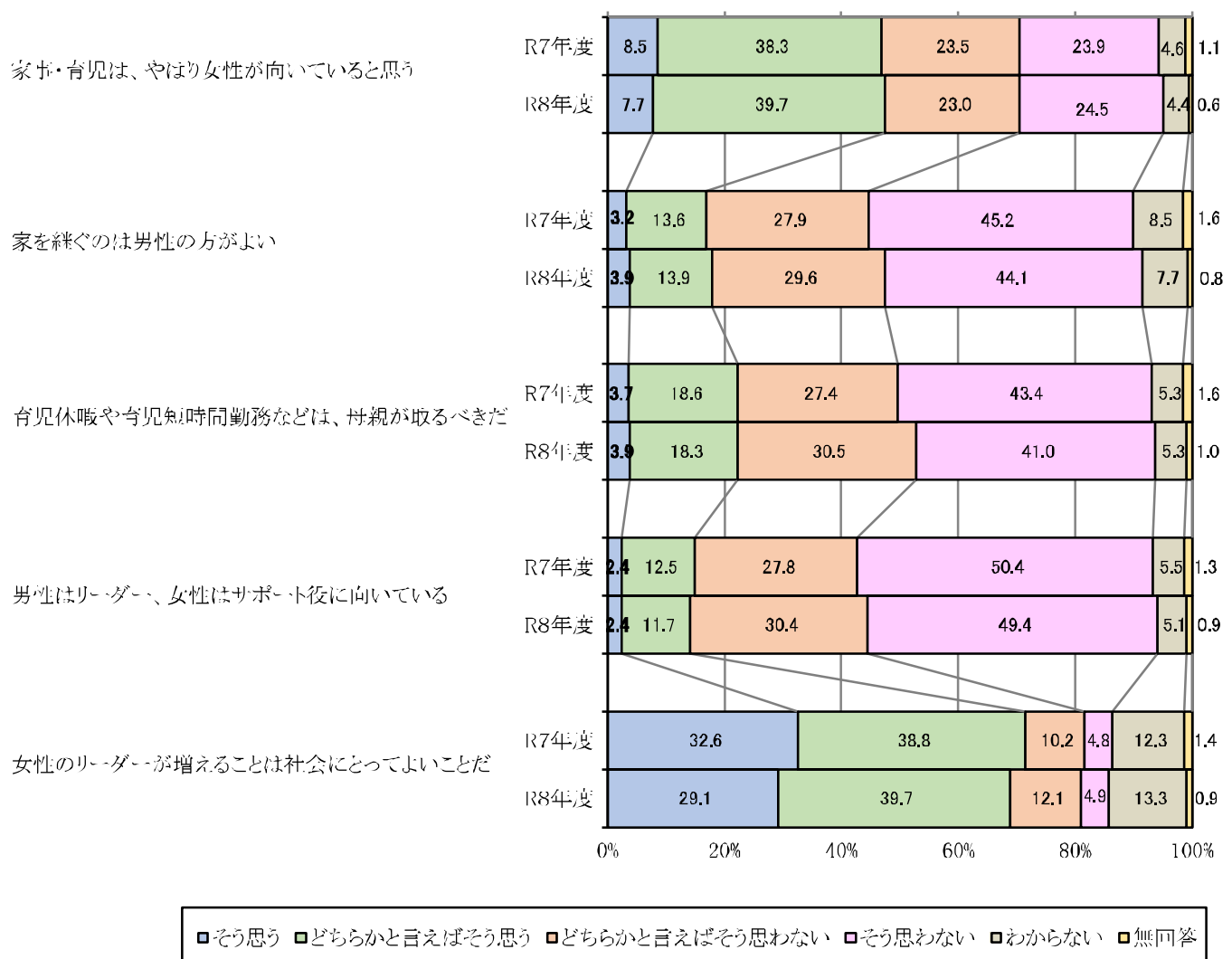
～「女性のリーダーが増えることは社会にとってよいことだ」への共感が約7割～

性別に関するアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)について、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計は、「女性のリーダーが増えることは社会にとってよいことだ」が 68.8%と最も高く、次いで「家事・育児は、やはり女性が向いていると思う」が 47.4%となっている。

また、「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」の合計は、「家を継ぐのは男性の方がよい」「育児休暇や育児短時間勤務などは、母親が取るべきだ」「男性はリーダー、女性はサポート役に向いている」が7割以上と高くなっている。

前回調査と比較してみると、「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」の合計は「男性はリーダー、女性はサポート役に向いている」「女性のリーダーが増えることは社会にとってよいことだ」が2ポイント程度増加している。

図30 性別に関するアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)について (年次比較)



問 11 ご自身の中に、「男だから」「女だから」といった性別による役割分担意識があると思いますか。(〇は1つだけ)

～性別による役割分担意識について、「ある」が約半数～

性別による役割分担意識について、「ある」が 50.8%となっている。また、「ない」は 30.0%となっている。

前回調査と比較してみると、「ない」が3ポイント程度増加している。

年代別でみると、「ある」は 40 歳代以上で高く、「ない」は 20～30 歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「ある」は女性の 40 歳代以上で高く、「ない」は男性の 20～30 歳代で高くなっている。

図31 性別役割分担意識（年次比較）

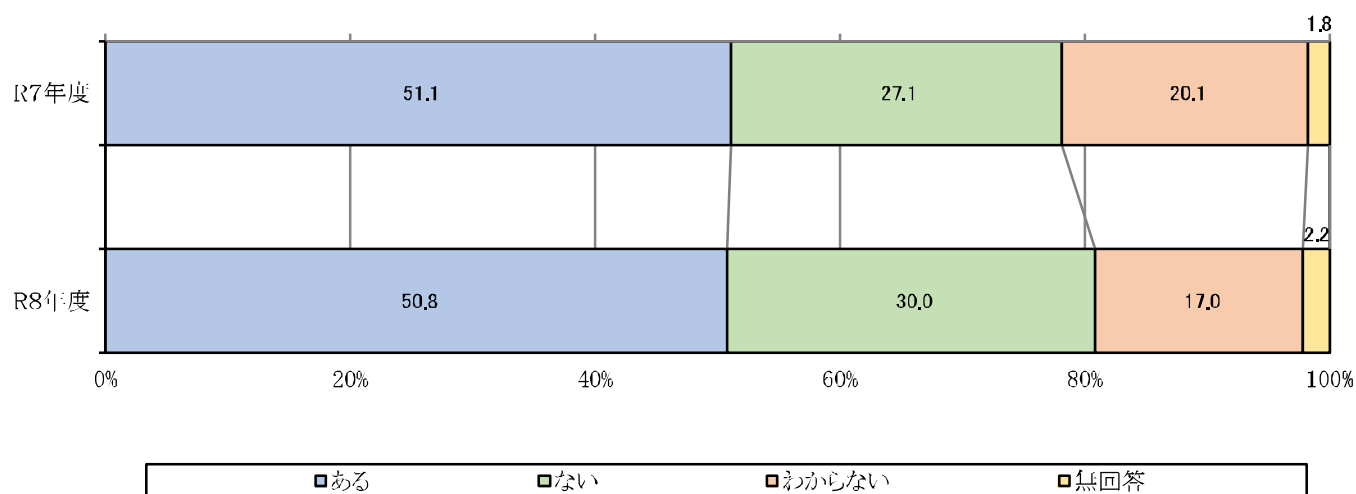
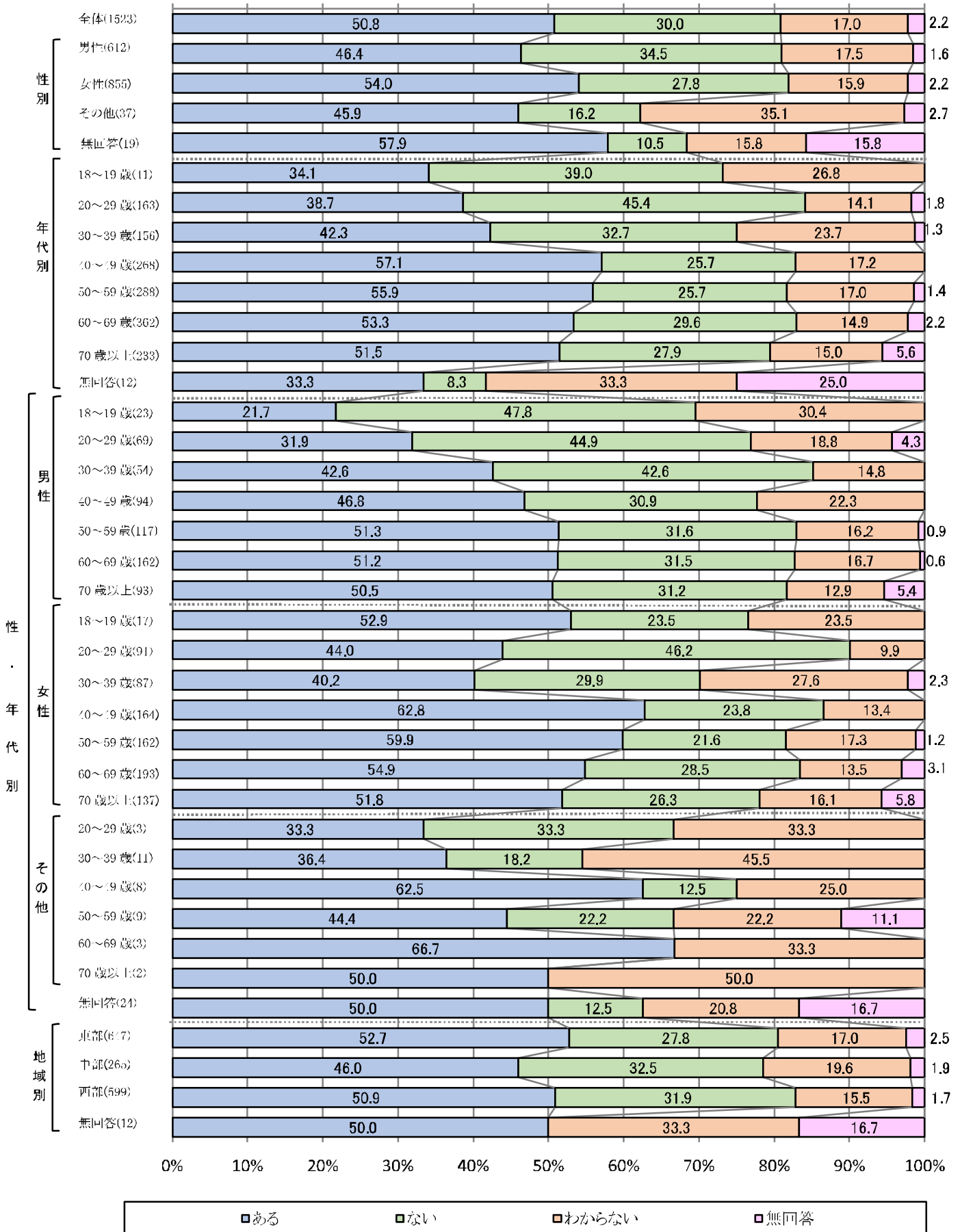


図32 性別役割分担意識:自身の中に「男だから」「女だから」といった性別による役割分担意識があるか(○は1つ)



問 12 (「ある」と回答された方へ)ご自身の中にある性別役割分担意識は、主に誰からまたは何から影響を受けたものだと思いますか。(〇はいくつでも)

～「家族(親、きょうだい、パートナー)や友人・知人」が約8割～

性別役割分担意識は、主に誰からまたは何から影響を受けたものかについて、「家族(親、きょうだい、パートナー)や友人・知人」が 78.3%と最も高く、次いで「職場」が 32.0%、「学校」が 19.1%となっている。

前回調査と比較してみると、「家族(親、きょうだい、パートナー)や友人・知人」「学校」が 1.5 ポイント程度増加している。

年代別でみると、「家族(親、きょうだい、パートナー)や友人・知人」は 60 歳代以上、「職場」は 30～50 歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「家族(親、きょうだい、パートナー)や友人・知人」は男性の 70 歳代以上、女性の 10～60 歳代、「新聞・雑誌、テレビ、本・マンガ」「インターネット、SNS」は女性の 20～30 歳代で高くなっている。

図33 性別役割分担意識は誰からまたは何からの影響か(年次比較)

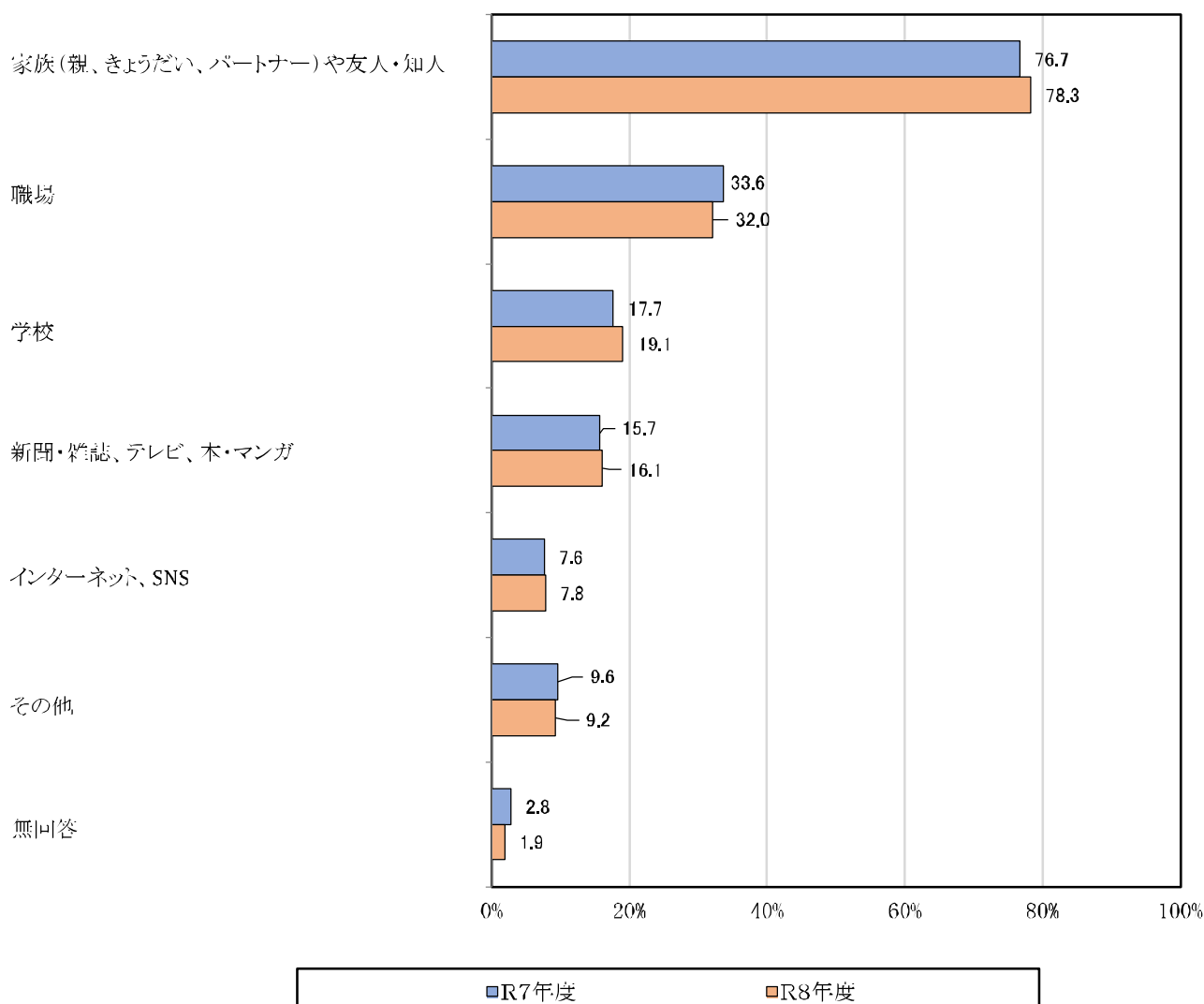
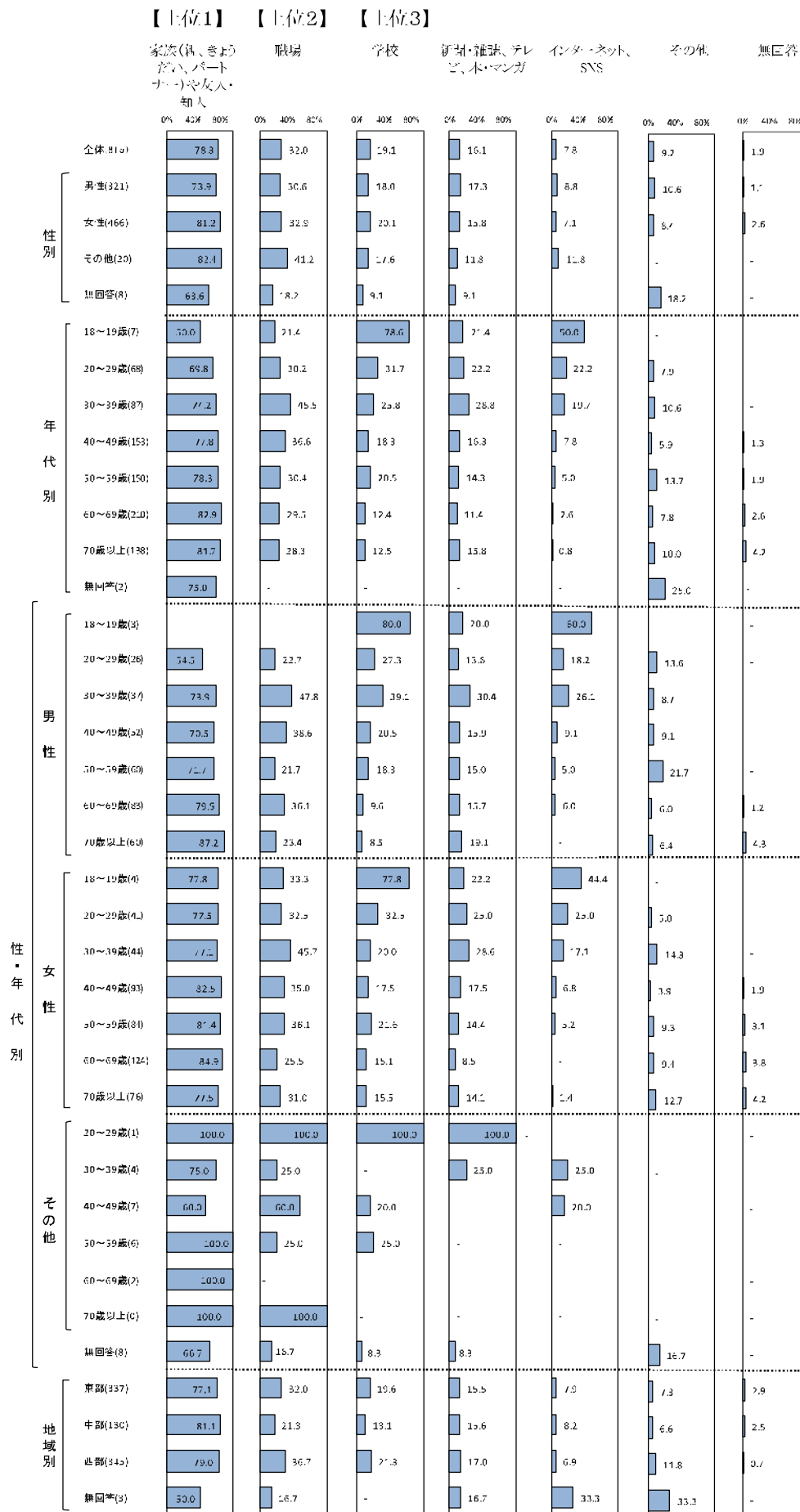


図 34 性別役割分担意識は、主に誰からまたは何から影響を受けたか(性別・年代別・地域別)



問 13 「男だから」「女だから」といった性別による生きづらさ(「暮らしづらさ」、「働きづらさ」、「仕事と家庭の両立しづらさ」など)を感じたことがありますか。(○は1つだけ)

～性別による生きづらさを感じたことが「ある」が約2割～

性別による生きづらさを感じたことがあるかについて、「ある」が 24.5%、「ない」が 48.9%となっている。

前回調査と比較してみると、「ある」は 2.7 ポイント減少、「ない」は 3.9 ポイント増加している。年代別でみると、「ある」は 40～50 歳代で高く、「ない」は 20 歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「ある」は女性の 30 歳代以上が高く、全ての年代で女性が男性より高くなっている。「ない」は男性の 20～30 歳代、70 歳代以上で高くなっている。

図35 性別による生きづらさ（年次比較）

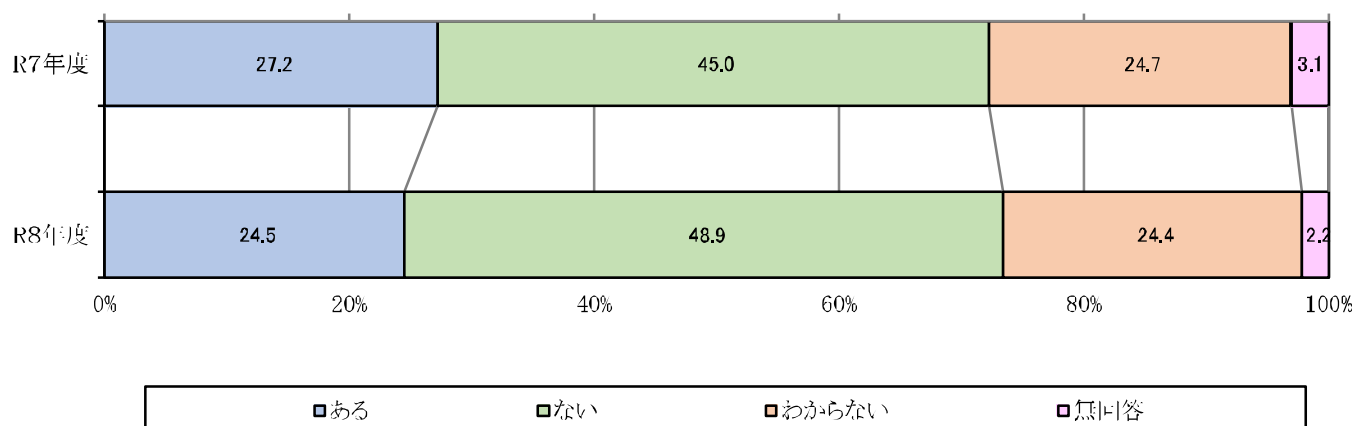
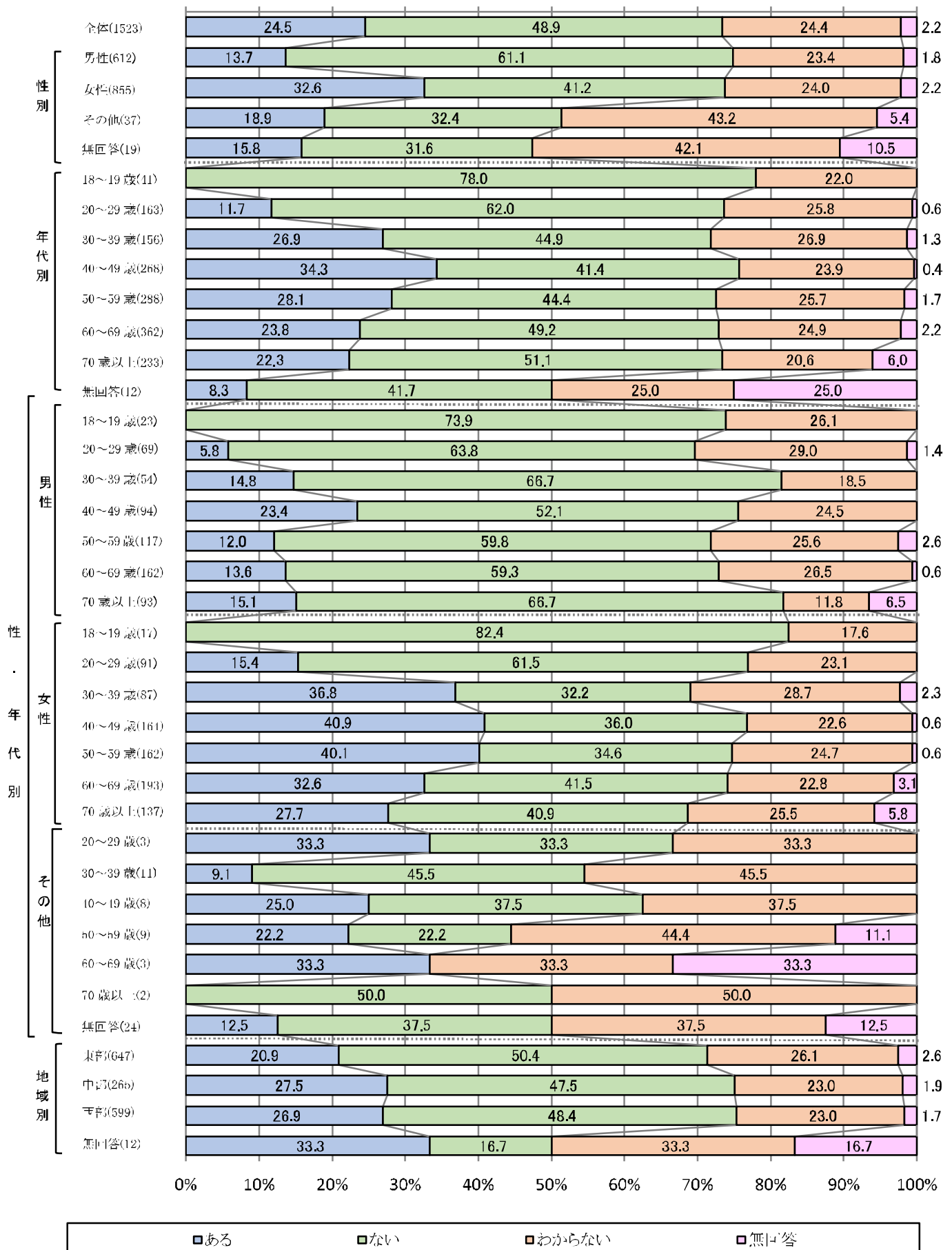


図36 「男だから」「女だから」といった性別による生きづらさを感じたことがあるか
(性別・年代別・地域別)



問 14 (「ある」と回答された方へ)それはどんなできごとでしたか。
自由記載ページ(P49)にて抜粋して紹介しています。

問 15 どうすれば性別役割分担意識による生きづらさ(「暮らしづらさ」、「働きづらさ」、「仕事と家庭の両立しづらさ」など)が解消されると思いますか。(〇はいくつでも)

～「家庭と仕事を両立しやすい環境」が約6割～

どうすれば性別役割分担意識による生きづらさが解消されるかについて、「家庭と仕事を両立しやすい環境」が62.5%と最も高く、次いで「性別に関係なく、自分の能力や個性を最大限に発揮できる社会を目指す意識づくり」が55.3%、「男性がすべき、女性がすべき」といった性別役割分担意識に基づく慣習やしきたりの見直し」が52.2%となっている。

前回調査と比較してみると、「男女共同参画センター等が実施する研修会やセミナーへの参加」が1.7ポイント増加している。

年代別でみると、「家庭と仕事を両立しやすい環境」は20歳代、「性別に関係なく、自分の能力や個性を最大限に発揮できる社会を目指す意識づくり」は60歳代以上で高くなっている。

性・年代別でみると、「家庭と仕事を両立しやすい環境」は男性の20歳代、女性の20～40歳代で高く、「性別に関係なく、自分の能力や個性を最大限に発揮できる社会を目指す意識づくり」は男性の50歳代以上、女性の70歳代以上で高く、「男性がすべき、女性がすべき」といった性別役割分担意識に基づく慣習やしきたりの見直し」は女性の60歳代以上で高く、また全ての年代で女性が男性より高くなっている。

図37 性別役割分担意識による生きづらさの解消(年次比較)

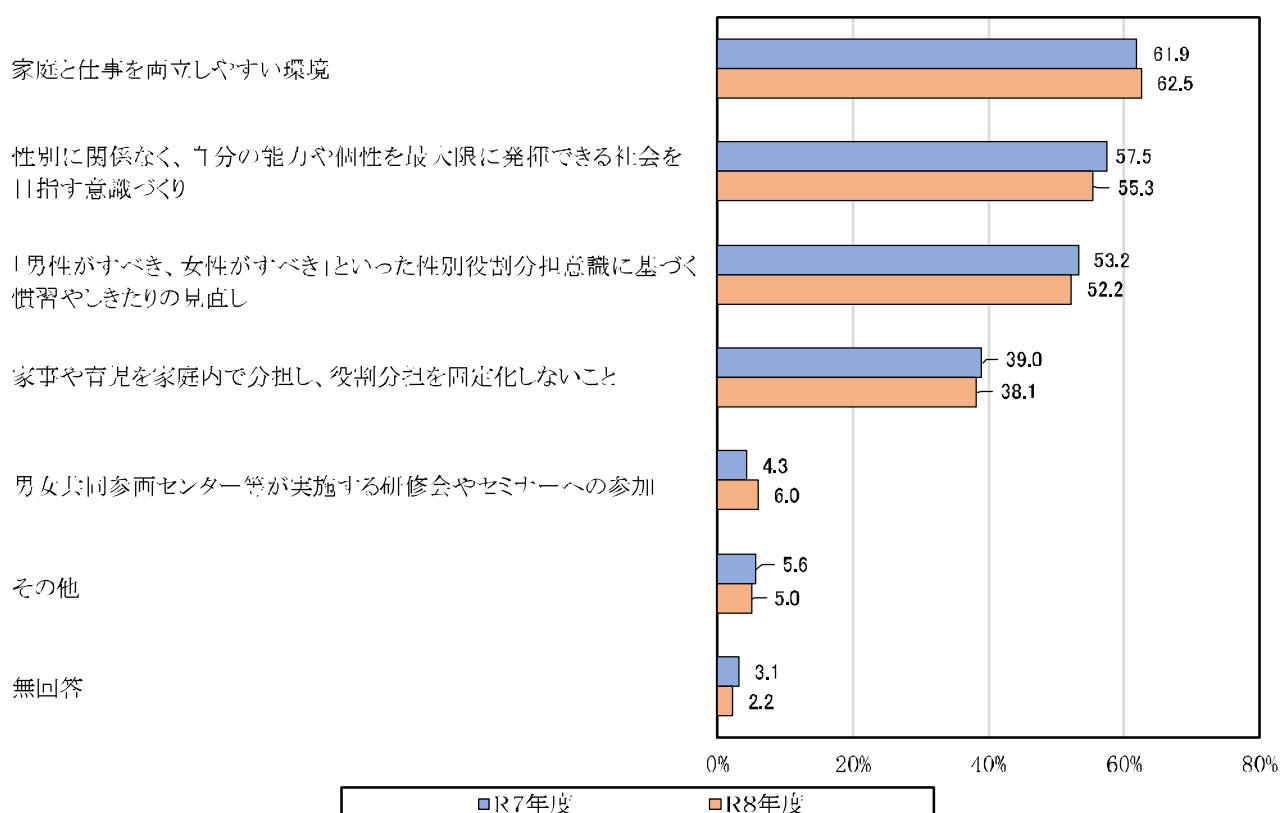


図 38 性別役割分担意識による生きづらさの解消(性別・年代別・地域別)

